

水道工事図面作成要領

令和6年6月

倉敷市水道局

目 次

第1章 設計図面

1	適用範囲	1
2	図面の規格	1
3	図面の種類と縮尺	2
4	図面の折りたたみ方法	2
5	標題の位置及び記入事項	2
6	製図方法	3
7	各種図面作成要領	4
8	図面整理	1 1

第2章 しゅん工図面

1	適用範囲	1 3
2	原図の規格	1 3
3	図面の種類と縮尺	1 4
4	地形図の作成	1 4
5	オフセット測量	1 4
6	製図方法	1 4
7	記入項目・様式	1 5
8	管種一覧表	3 0

参考

給水管位置記録表の記載要領

水道施設記号集

電子媒体の対象となる成果品作成要領

第 1 章 設計図面

第1章 設計図面

1 適用範囲

- (1) この要領は、倉敷市水道局が発注する主に管路主体の請負工事の設計図面の作成に適用する。
- (2) 設計図の作成、取り扱いについては本要領によるほか、「上水道施設に係わるCAD製図基準（社団法人 日本水道協会・平成24年7月）」、JISA-0101「土木製図通則」による。
- (3) 設計図面は電子複写普通紙を標準とする。
- (4) この要領に定めのない事項又はこれにより難しい場合は、企画検査室と協議のこと。

2 図面の規格

- (1) 原図の大きさは、A1判（594mm×841mm）とする。
- (2) 設計書に添付する図面（紙）の大きさは、縮小版（A3判）を標準とする。ただし、縮小版では判読不能の場合等は、A1版を使用しても良い。
- (3) 図郭線及び標題の位置は、次のとおりとする。

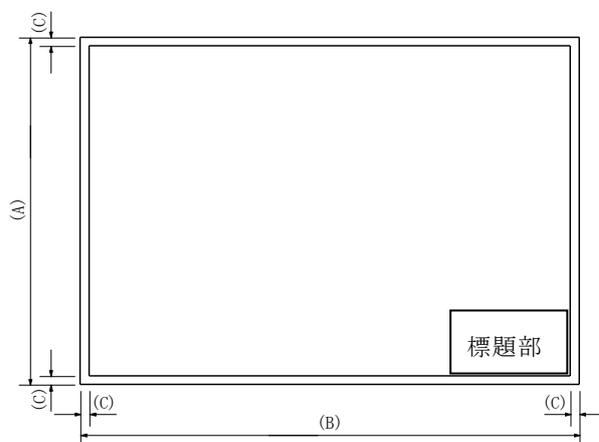


図2-1 原図の規格

(単位：mm)

原図のサイズ	A-1
(A) × (B)	594 × 841
(C)	15

表2-1 図面の規格

3 図面の種類と縮尺

図面の種類及び利用する縮尺は特別な場合を除き、次のとおりとする。

- (1) 位置図 縮尺 S = 1/5、000・1/10、000・1/25、000
- (2) 平面図 縮尺 S = 1/250・1/500・1/1、000・1/2、500
- (3) 縦断面図 縮尺 縦1/100～1/50、横1/500
- (4) 横断面図 縮尺 S = 1/50・1/100
- (5) 配管図 縮尺 特に定めない。
- (6) 詳細図 縮尺 特に定めない。
- (7) 給水管切替図 縮尺 S = 1/250・1/500・1/1、000
- (8) 給水管切替標準図 縮尺 特に定めない。
- (9) 土工図 縮尺 S = 1/20・1/30・1/50・1/60
- (10) 現況配管図 縮尺 S = 1/2500

4 図面の折りたたみ方法

図面の折りたたみ方法は、常時標題が見えるように折りたたみ、表面に標題を出す。

5 標題の位置及び記入事項

- (1) 標題は図面右下の図5-1に示す位置に記入する。また、図面が複数になる場合は全ての図面に記入する。
- (2) 標題欄の大きさ、記入項目は、図5-1のとおりとする。
- (3) 「原図」欄には、原図のサイズを記載すること。

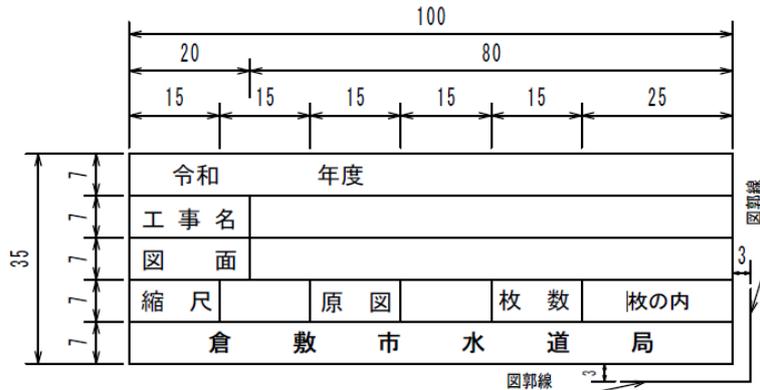


図5-1 標題

6 製図方法

(1) 製図方法は、JISZ-8310「製図総則」及びJISA-0101「土木製図通則」に準拠する。

ただし、CADによる製図方法は、「上水道施設に係わるCAD製図基準（社団法人日本水道協会・平成24年7月）」、別紙「倉敷市水道局CAD製図基準」を準拠すること。

(2) 配管図記号は、別紙「水道施設記号集」を使用し、文字記号、図示記号、符号等についてはJISZ-8313「製図-文字」に準拠する。

(3) 新設管は実線で、既設管は破線で表示し、埋没管については、斜線で消込みを行う。（図6-1参照）

(4) 寸法の記入は、寸法線にそって上側に記入することを原則とし、垂直線に対しては左側に記入する。（図6-2参照）

(5) 数字・英字の記号は、字形等を使用記入し、字の大きさについては3.5mm以上のサイズを使用する。

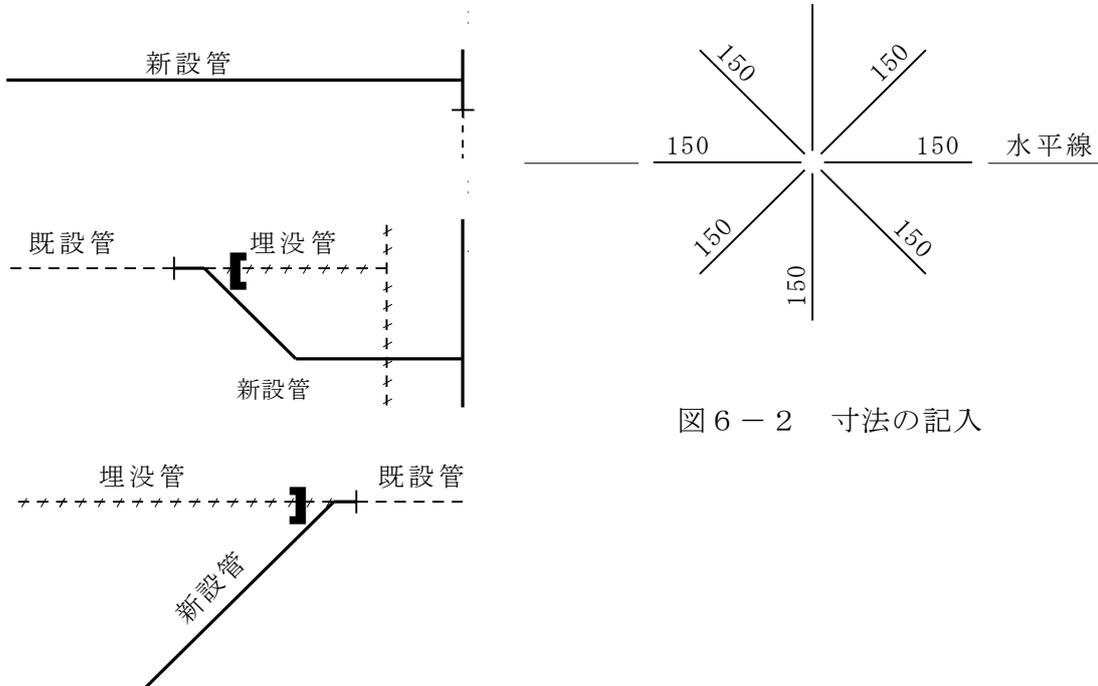


図6-2 寸法の記入

図6-1 管の表示例

7 各種図面作成要領

設計図面の記載については、次の事項に注意をして行なうものとするが、できるだけわかりやすい図面を作成するよう努めること。

(1) 位置図

ア 縮尺は1/5000を標準とし、都市計画図を基に作成する。

イ 平面図の左上角に配置し、図面上部にサブタイトル、縮尺、方位記号及び目標物の名称等を記入する。

ウ 工事場所は、工事路線を極太線により強調表示し、引き出し線等により「工事場所」と表示する。なお、工事場所が2箇所以上になる場合は、箇所名等を記入する。

エ 輪郭の大きさは、B5判（18.2 cm×25.7 cm）以上とする。

(2) 平面図

ア 縮尺は1/500を標準とする。

イ 地形図は、原則として都市計画図を基に作成し、図面上部にサブタイトル、縮尺、方位記号を記入し、工事施工に必要な範囲に余裕をもった範囲とする。

ウ 図面の方位は、上部を「北」とすることを標準とし、これによりがたい場合は上部を「東」として配置する。

エ 平面図内には、目標物の名称、新設・既設水道施設、測点、路線・工種名等を記入する。

オ 水道施設の記号は、別紙「水道施設記号集」を使用する。

カ 新設管路は、太線の実線で明確にわかるように表示する。

キ 新設管路には、路線名・管種（布設工のみ）・工種・口径・延長（平面・管路）
・土被り・入替種別・道路形態等を記入する。

（例）Aルート GX形DIP布設工 φ100 L=320.00m（320.54m）

土被り0.6m 土砂全面入替 アスファルト舗装道

ク 延長は、m表示で少数第2位までとし、平面延長については少数第1位にて丸め、管路延長は括弧書きで表示する。

ケ 既設管は、破線（細線）で表示し、管種・口径・土被りを記入する。また埋没管については、管種・口径を記入し、その上を斜線で消込みを行う。（図7-1参照）

- コ 仕切弁、青銅仕切弁、消火栓及び空気弁には管理番号を記載すること。（配水管に設置するものについてのみ。給水管に設置するものには記載しなくてよい。また、詳細図等には記載しなくてよい）。字の大きさは 3.5 mm以上のサイズとし、交差点等で設置基数が多くなる場合は、引き出し線等を使用して表示すること。（図 7-2 参照）
- サ 締切仕切弁は（排水管に設置するものは除く）黒塗りで図示すること。（図 7-2 参照）

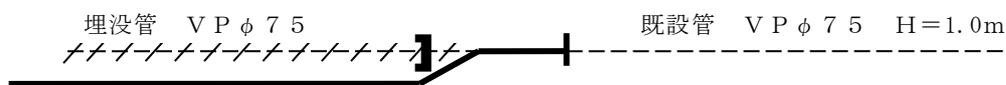


図 7-1 既設管・埋設管表

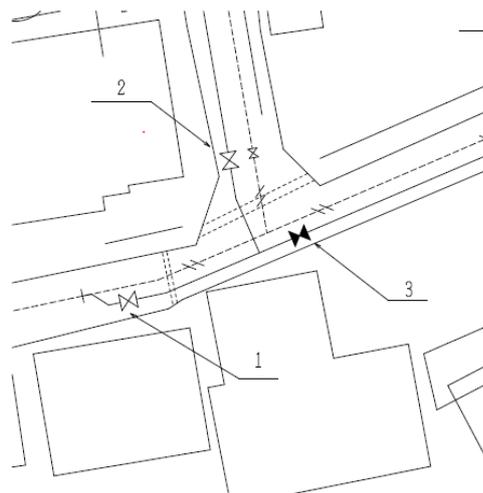


図 7-2 仕切弁表示例

- シ 測点の位置を記入し、測点番号は「0」から始まり「No. 〇〇」と表示し、位置については、矢視（）で表す。

(4) 縦断面図

- ア 図面上部にサブタイトルを記入する。
- イ 平面図と対比できるように配置し、左側を始点とする。
- ウ 測点番号、距離、追加距離、地盤高、管頂高、土被り、管勾配等を記入し、地形の縦断面図上に管及び構造物の縦断状況、基準面の高さ、管種、口径、縮尺等を表示する。

(4) 横断面図

ア 図面上部にサブタイトル、縮尺を記入する。

イ 測点は、起終点及び50mごとに設けることを標準とし、変化点（管理上必要な箇所）にも設けることとする。

ウ 測点ごとに横断面図を書き、断面の測定（切り方）方向は、図7-3のとおりとする。ただし、同一路線の場合は、断面の切り方は同一方向とする。

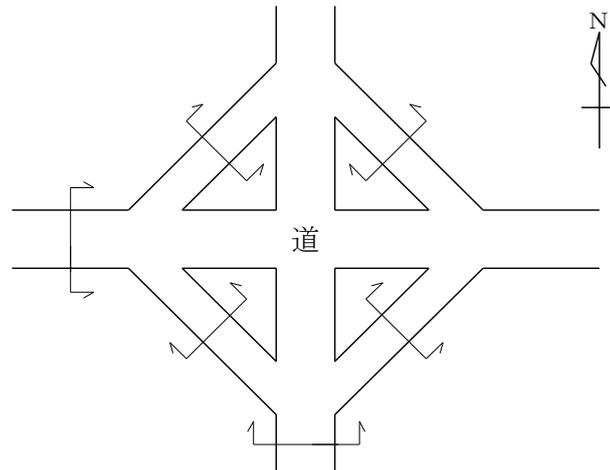


図7-3 断面の測定方向

エ 道路幅員、新設管布設位置、地下埋設物位置、舗装復旧幅、掘削幅、土被り等の寸法を記入し、新設管及び既存の地下埋設物を表示し、名称等を記入する。

オ 寸法はmで表し、小数第2位まで記入する。

カ 水道管の埋設位置は道路の両端（官民境）から測定記入し、土被りは道路天から測定する。ただし、工事中の道路では道路計画天を基準とする。（図7-4参照）

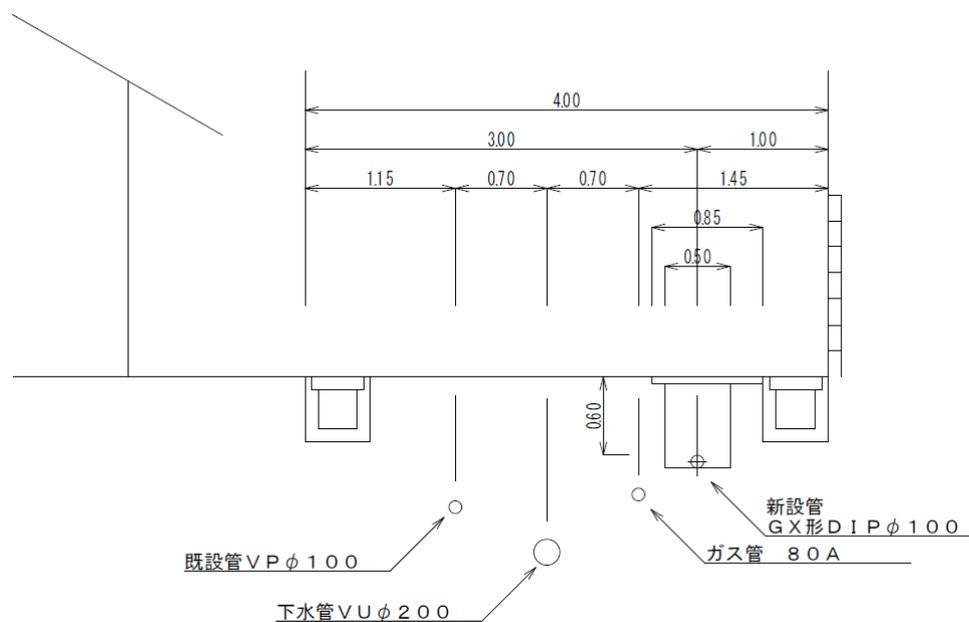


図7-4 横断面図(例)

(5) 配管図

- ア 原則として平面配管により作成し、平面図と対照できるように配置する。また、図面上部にサブタイトルを記入する。
- イ 配管記号は、別紙「水道施設記号集」を使用する。
- ウ 同一路線においても、管種、口径毎に管路延長が10mを越えるものについては各個別ルートとする。
- エ 各路線、工種ごとに旗上げし、路線名・管種（布設工のみ）・工種・口径・延長（平面・管路）・土被り・入替種別・道路形態・土工番号等を記入する。
- オ ルート内で管種、口径、土被り等が変化する場合は、区分けをして区間延長をそれぞれ記入する。（図7-5参照）
- カ 延長及び各種寸法は、m表示で少数第2位までとし、路線の総平面延長については小数第1位にて丸め、管路延長は括弧書きで表示する。

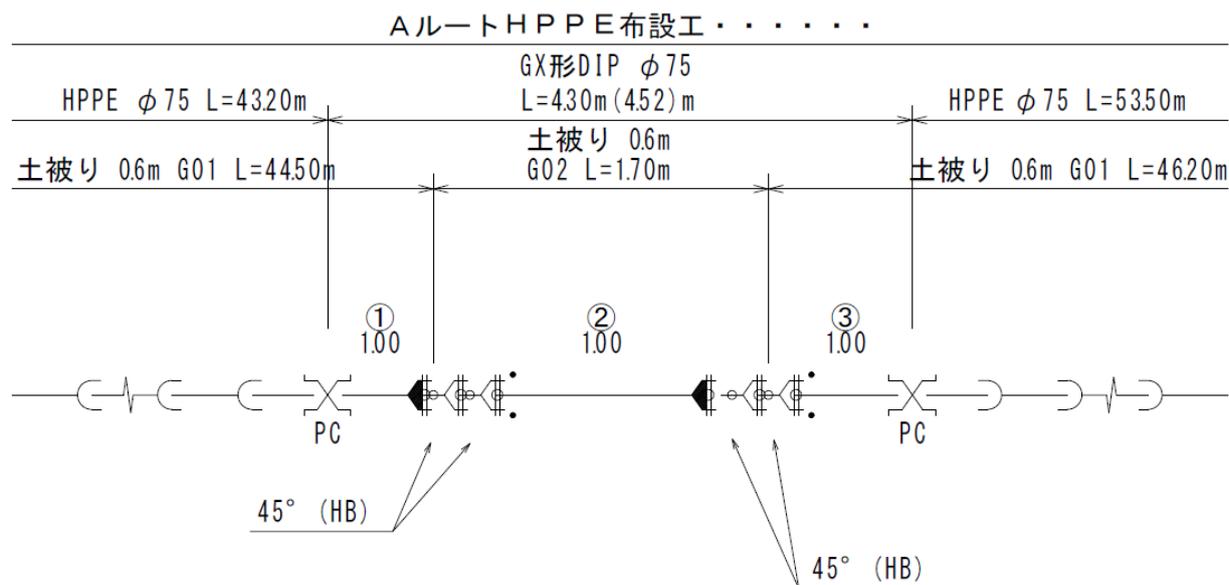


図7-5 寸法線等記入例

- キ 鋳鉄管の直管については、それぞれ寸法を記入し、切管調書（図7-6参照）を作成する。ただし、切管調書内に複数ルートの切管が混在する場合は、ルート毎に集計すること。また、定尺物が連続する場合は省略記号を使用し、その総本数を記入してもよいが、ライナ・離脱防止金具等を設置する場合は、省略することなく全て表記すること。

切管調書

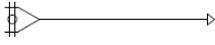
ルート名	管種・口径									
	切管組合せ	原管形式	有効長	残管長	切 断・ 溝 切	溝 切	切 断		挿リング*	備 考
		受口-挿口	m	m	専用工具 箇所	専用工具 箇所	キールカッター 箇所	エンジンカッター 箇所	箇所	
	—									
計	—									

図 7 - 6 切管調書(例)

ク 曲管については、引出し線で角度及び曲がりの形状（HB・VB・CB）を記入し、T字管、片落管等については、引出し線で口径を記入し、配管記号により種別が分かり難いものは、名称等も記入すること。

ケ 管路が添架、伏越し等により垂直方向に変化する場合や、平面配管にて表示し難い場合は、断面詳細図を記入する。このとき、管路の各土被り及び障害物等との離隔を表示すること。（図 7 - 7・8 参照）また、断面詳細図は可能な限り当該平面配管の近くに記入すること。

コ 管路において、口径 400 mm 以上の大口径管については、配管図上に拘束長を表示すること。なお、設計水圧が 0.75MPa を超える場合は、口径を問わず、設計水圧と合わせて、拘束長を表示すること。

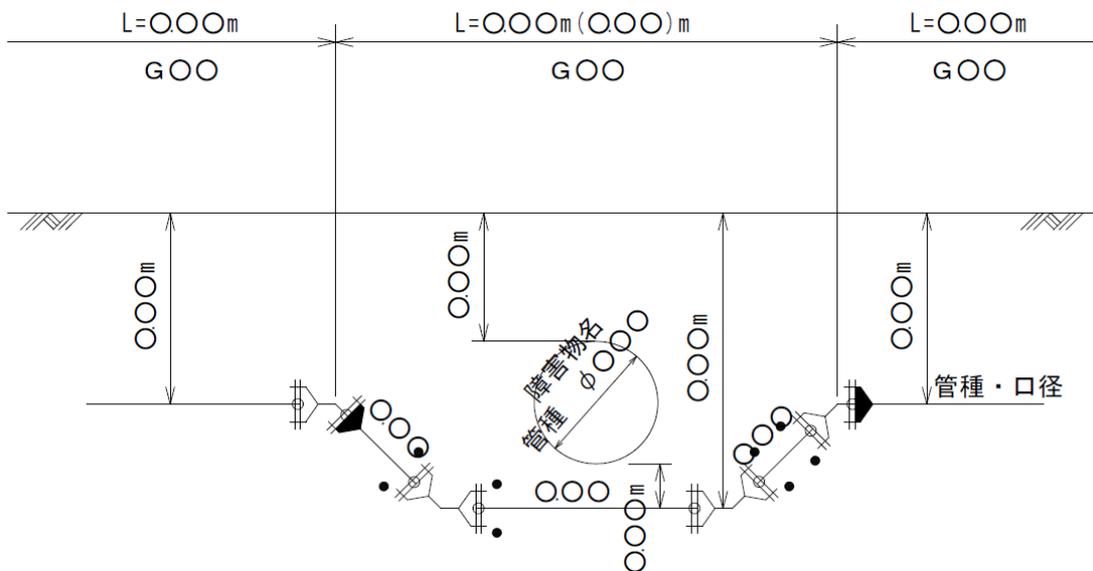


図 7 - 7 断面詳細図 例 1 (φ 150 mm 以下)

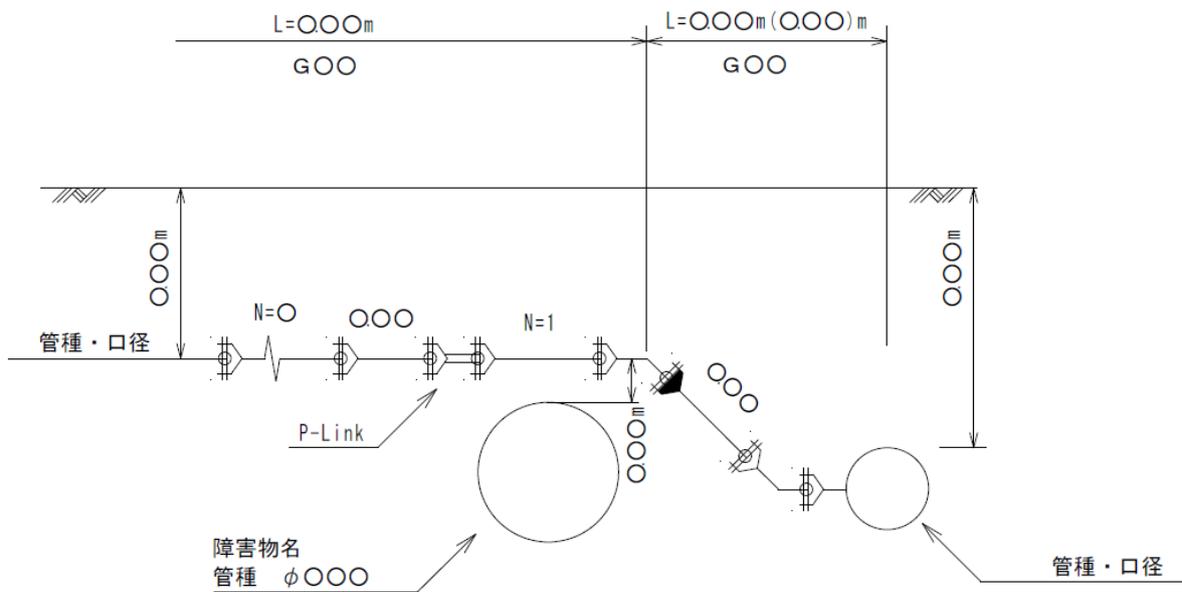


図 7 - 8 断面詳細図 例 2

サ 既設管は、破線（細線）で表示し、管種・口径・土被りを記入する。また埋没管については、管種・口径・延長を記入し、その上を斜線で消込みを行う。なお、埋没管延長は新設管路の全線に既設管がある場合は、布設延長の数量に合わせる。

シ 排水管取付工の口径は吐出径とすること。

(6) 土工図

ア 図面上部にサブタイトル及び縮尺を記入する。

イ 土工番号は、G + 2桁の数字とする。

ウ 原則として中心線により左右を分割し、左側を掘削、右側を埋戻しの状況を記入する。

エ 記入事項

- (ア) 舗装版取壊し復旧の幅、種類及び厚さ
- (イ) 掘削幅、掘削深さ及び土被り
- (ウ) 掘削土等の種類及び厚さ
- (エ) 埋戻し材等の種類及び厚さ
- (オ) 管保護材の種類、厚さ及び管上の厚さ

- (カ) 埋設シート
- (キ) 新設管の管種・口径
- (ク) 矢板の種類、長さ及び支保工の種類

(7) 給水管切替図（図7-9参照）

ア 原則として平面図に併記するものとし、併記することが困難な場合は別図とする。

イ 分岐位置よりメーター位置までを実線で結び、メーター位置は M で表示する。また、切替番号（通し番号）をつけて給水管切替表と照合できる様にする。

ウ メーターから各戸までは点線で表示し、給水先を明確に示す。

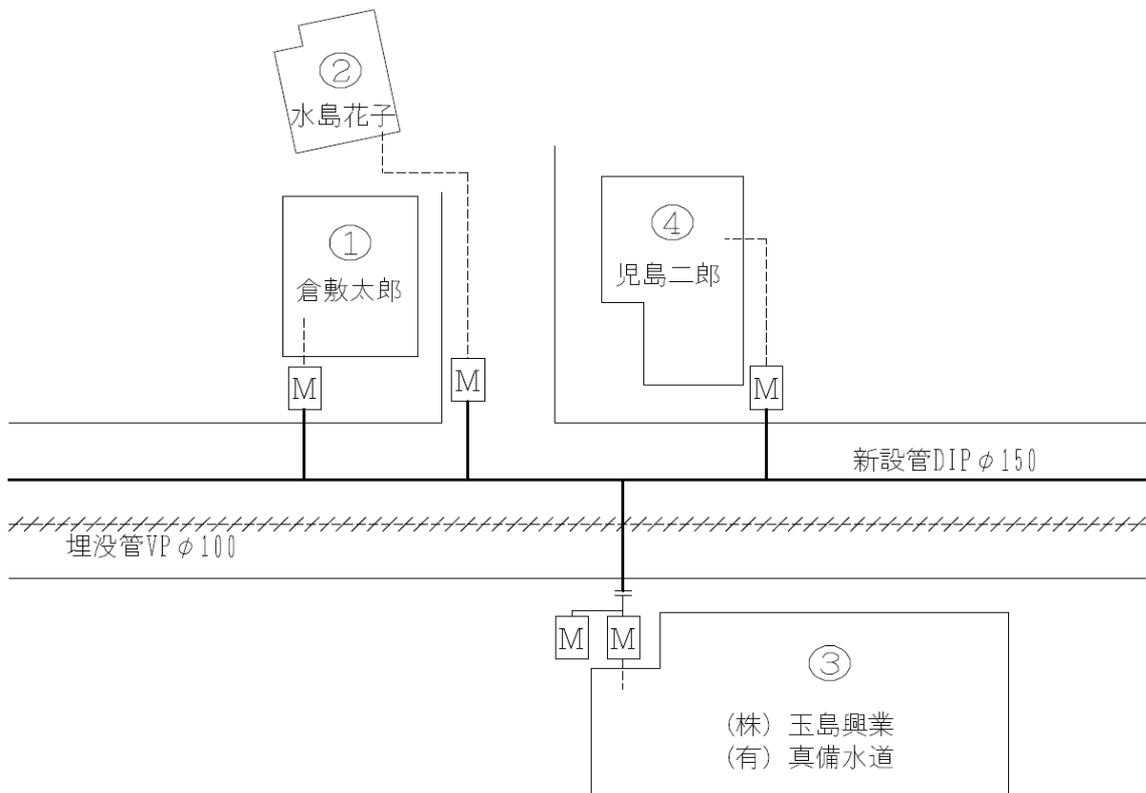


図7-9 給水管切替図(例)

エ 給水管切替表を作成し、次の項目を記載する。（表7-1参照）

- (ア) 切替番号
- (イ) 使用者氏名（使用者が複数の場合は、「外○」と記入する。）
- (ウ) 配水管管種
- (エ) 配水管口径

- (オ) 給水管口径
- (カ) 量水器口径（量水器が複数の場合は、「外○」と記入する。）
- (キ) 切替延長（管路延長は括弧書きにする）
- (ク) 土工番号
- (ケ) タイプ（給水管切替標準図のタイプを記入する）
- (コ) 量水器番号（量水器が複数の場合は、親番の量水器番号+外○と記入する。）
- (カ) 水栓番号（水栓番号が複数の場合は、親番+外○と記入する。）
- (シ) 備考（ルート名等を記入する）

切替 番号	使用者氏名	配水管 管 種	配水管 口 径 φ ㎜	給水管 口 径 φ ㎜	量水器 口 径 φ ㎜	切替延長 m	土工 番号	タイプ	量水器番号	水栓番号	備考

表 7 - 1 給水管切替表

(8) 給水管切替標準図

- ア 原則として立体配管により作成し、給水管切替表と対照できるように配置する。
また、図面上部にサブタイトルを記入する。
- イ 延長は標準図のタイプごとに平均距離（m単位で少数第2位以下切捨て）を算出し、計算式を給水管切替表の下部に記入する。
- ウ その他の記入方法については、配管図に準ずるものとする。

8 図面整理

図面は次の順序で追番号をつけて整理する。

1. 位置図
2. 平面図
3. 縦断面図

4. 横断面図
5. 配管図（部分的な断面詳細図を含む）
6. 給水管切替図、給水管切替標準図
7. 土工図
8. その他（舗装復旧図、構造図等）

第2章 しゅん工図面

第2章 しゅん工図面

1 適用範囲

- (1) この要領は、倉敷市水道局が発注する主に管路主体の請負工事（修繕工事及び団地給水工事を含む。）のしゅん工図面の作成に適用する。
- (2) この要領に定めのない事項又はこれにより難しい場合は、監督員の指示による。

2 原図の規格

- (1) 原図の大きさは、A 1 版（594 mm×841 mm）とし、原図の材質は 200 番以上のマイラー用紙（両面マット）を使用する。
- (2) 原図の提出を電子データで行う場合は、「電子媒体の対象となる成果品作成要領」に従うこと。
- (3) 提出しゅん工図（紙）の大きさは、縮小版（A 3 判）を標準とする。ただし、縮小版では判読不能の場合等は、A 1 版を使用しても良い。
- (4) しゅん工図面が複数になる場合は、同一サイズに統一する。
- (5) 図郭線及び標題の位置は、次のとおりとする。

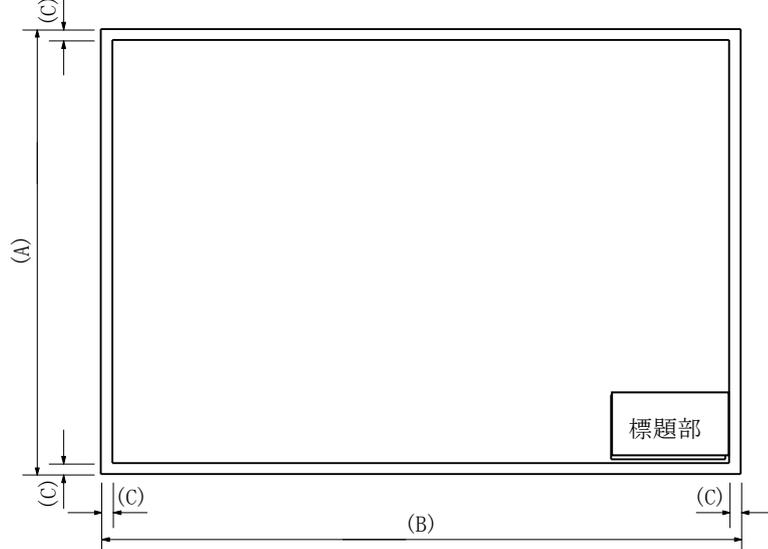


図 2 - 1 原図の規格

(単位：mm)

原図のサイズ	A - 1
(A) × (B)	594×841
(C)	15

表 2 - 1 原図の規格

3 図面の種類と縮尺

しゅん工図面の種類及び利用する縮尺は次のとおりとする。

- | | | |
|--------------------|----|--|
| (1) 位置図 | 縮尺 | $S = 1/5, 000 \cdot 1/10, 000$ |
| (2) 平面図 | 縮尺 | $S = 1/250 \cdot 1/500 \cdot 1/1, 000$ |
| (3) 縦断面図 | 縮尺 | 縦 $1/100 \sim 1/50$ 、横 $1/500$ |
| (4) 横断面図 | 縮尺 | $S = 1/50 \cdot 1/100$ |
| (5) 詳細図 | 縮尺 | 特に定めない。 |
| (6) 給水管切替図 | 縮尺 | $S = 1/250 \cdot 1/500 \cdot 1/1, 000$ |
| (7) 給水管位置記録表 | 縮尺 | 特に定めない |
| (8) その他監督員の指示するもの。 | | |

4 地形図の作成

- (1) 地形図は、都市計画図を基に作成する。
- (2) 受注者は、地形図を定められた用紙にコピーし(焼付)、位置図、平面図として使用する。

5 オフセット測量

- (1) オフセット測量については、配管完了と同時に配管上にポール等を設置し計測する。
- (2) オフセット測量の基準点は、将来とも識別可能であると考えられる半永久的な地点(構造物)からの計測とし、この場合の基準点は水道の施設(弁栓類)を除く。
- (3) 基準点は原則として3点以上とし、相互の交角はできるだけ120度前後とする。
- (4) 基準点の設置は、マンホールはその中心とし、電柱(コンクリート柱)及びその他構造物は、原則としてその構造物と測点ポイントの距離が最短になるような所に基準点を設置し、オフセット図にその位置を明確に図示する。
- (5) オフセット測量の数値はmで表し、少数第3位を四捨五入して少数第2位まで記載する。
- (6) 電柱番号は、番号プレートが複数ある場合は最上段のプレート番号を記載する。

6 製図方法

- (1) 製図方法は、JISZ-8310「製図総則」及びJISA-0101「土木製図通則」に準拠する。
ただし、CADによる製図方法は、「上水道施設に係わるCAD製図基準(社団法人日本水道協会・平成24年7月)」を準拠すること。

- (2) 配管図記号は、別紙「水道施設記号集」を使用し、文字記号、図示記号、符号等についてはJISZ-8313「製図-文字」に準拠する。
- (3) しゅん工図原図へのトレースは、インキングとする。鉛筆書きにしてもよいが、太さ・濃度差がなく濃く明確に書くこと。
- (4) 新設管は実線で、既設管は破線で表示し、埋没管については、斜線で消込みを行う。
(図7-1参照)
- (5) 寸法の記入は、寸法線にそって上側に記入することを原則とし、垂直線に対しては左側に記入する。(図7-2参照)
- (6) 数字・英字の記号は、字形等を使用記入し、字の大きさについては4mm以上のサイズを使用する。

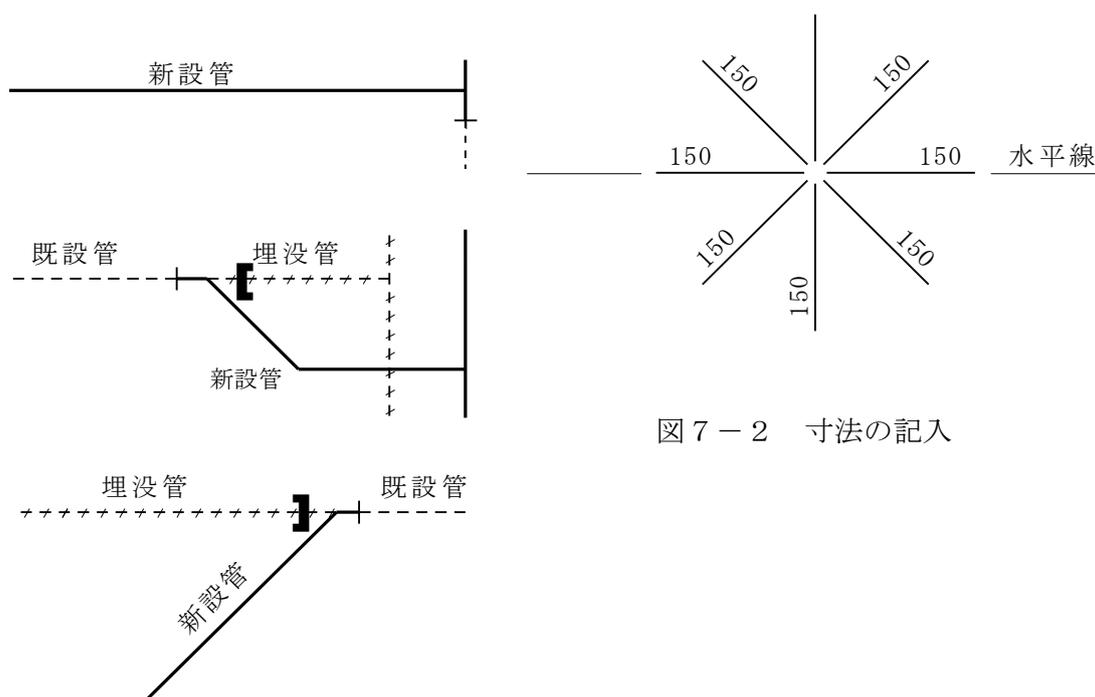


図7-1 管の表示

図7-2 寸法の記入

7 記入項目・様式

しゅん工図面に記入する項目及び様式は、次のとおりとする。

(1) 標題部 (請負工事)

ア 標題は図面右下の図8-1に示す位置に記入する。また、図面が複数になる場合は全

ての図面に記入する。

イ 標題欄の大きさ、記入項目は、図8-1のとおりとする。

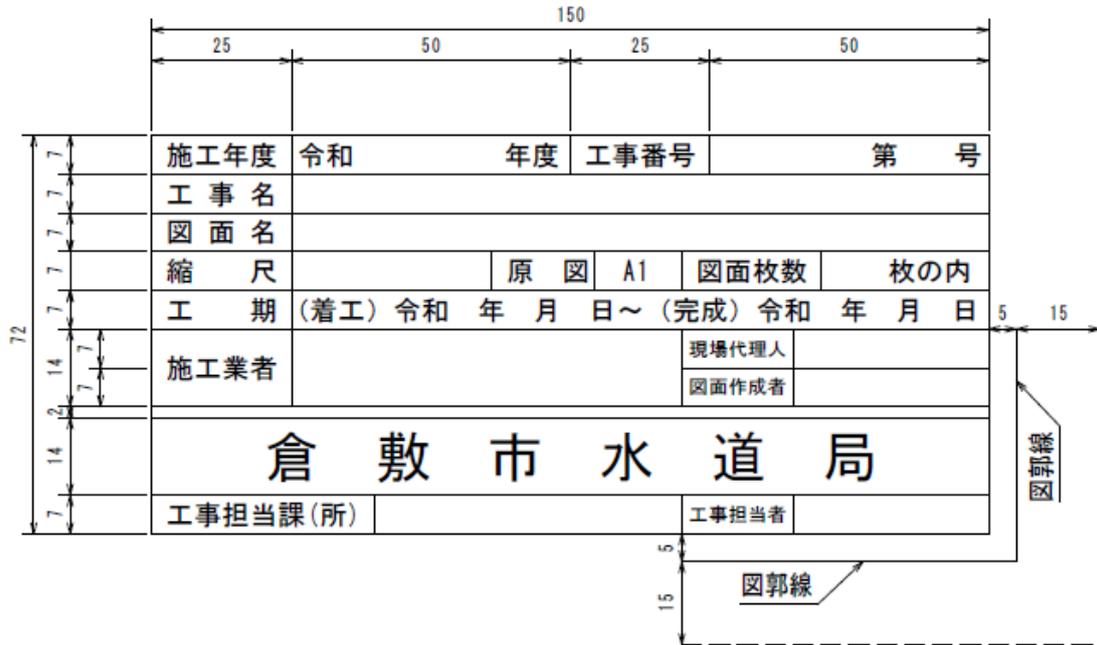


図8-1 標題（請負工事）

ウ 記入様式は、次のとおりとする。

- (ア) 施工年度：工事年度を記入
- (イ) 工事番号：当該工事の工事番号を記入（例：管建改 第77号）
- (ウ) 工事名：当該工事の工事名を記入
- (エ) 図面名：各図の名称を記入
- (オ) 縮尺：使用縮尺を記入
- (カ) 原図：原図のサイズを記入
- (キ) 図面枚数：（3枚の内1）のように記入
- (ク) 工期：当該工事の契約工期を記入
- (ケ) 施工業者：会社名を記入
- (コ) 現場代理人：現場代理人氏名を記入
- (ク) 図面作成者：しゅん工図作成者氏名を記入
- (セ) 工事担当課(所)：工事担当課（所）を記入
- (ス) 工事担当者：工事担当者名を記入。

(2) 標題部（修繕工事）

ア 標題は図面右下の図 8 - 2 に示す位置に記入する。また、図面が複数になる場合は全ての図面に記入する。

イ 標題欄の大きさ、記入項目は、図 8 - 2 のとおりとする。

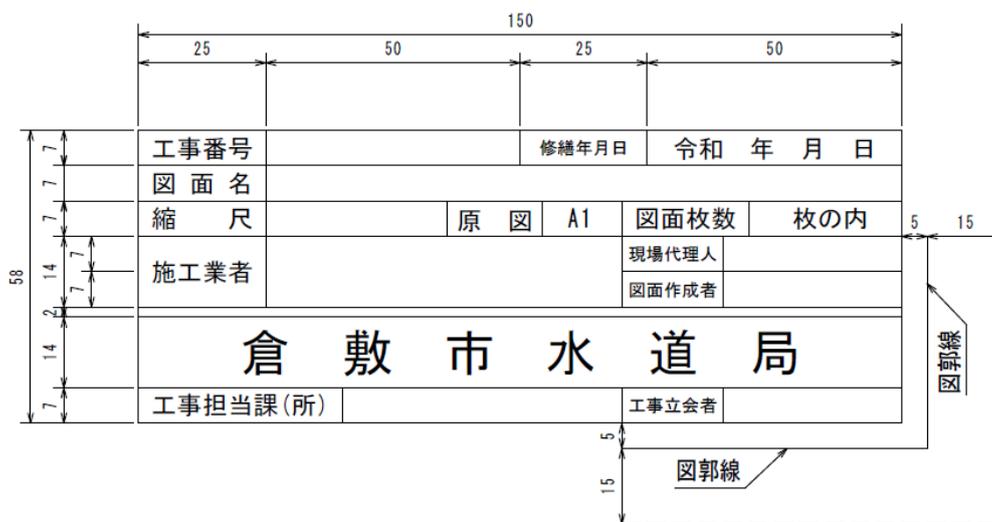


図 8 - 2 標題（修繕工事）

ウ 記入様式は、次のとおりとする。

- (ア) 工 事 番 号：工事番号を記入（例：R01-倉修繕 05-190）
- (イ) 図 面 名：各図の名称を記入
- (ウ) 縮 尺：使用縮尺を記入
- (エ) 原 図：原図のサイズを記入
- (オ) 図 面 枚 数：（3枚の内1）のように記入
- (カ) 修繕年月日：修繕日を記入
- (キ) 施 工 業 者：会社名を記入
- (ク) 現場代理人：現場代理人氏名を記入
- (ケ) 図面作成者：しゅん工図作成者氏名を記入
- (コ) 工事担当課(所)：工事担当課（所）を記入
- (ク) 工事立会者：立会者名を記入

(3) 占用関係記入欄

ア 占用関係記入欄は、1枚目の表題欄上部に記入する。また、占用関係が複数になる場合は、欄を追加して記入する。

イ 占用関係記入欄の大きさ、記入項目は、図8-3のとおりとする。

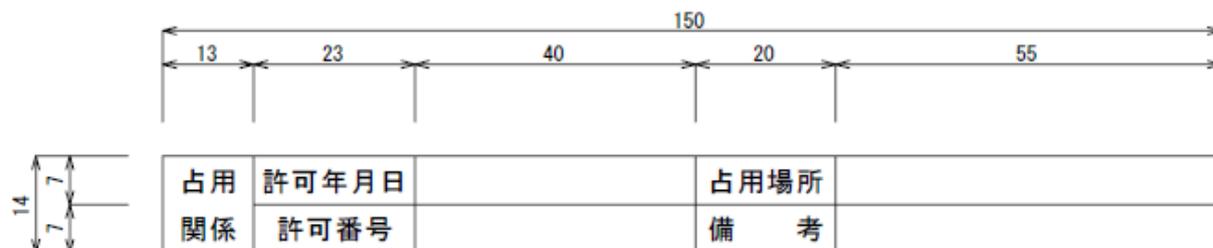


図8-3 占用関係記入欄

ウ 記入様式は、次のとおりとする。

- (ア) 許可年月日：占用許可の許可年月日を記入
- (イ) 占用場所：占用許可の占用場所を記入
- (ウ) 許可番号：占用許可の許可番号を記入
- (エ) 備考：占用許可の種別等を記入

(4) 標題等の記入例を図8-4に示す。

占用 関係	許可年月日	令和元年7月7日	占用場所	倉敷市倉敷町123番地先
	許可番号	倉敷市指令道第77号	備考	道路掘削許可
	許可年月日	令和元年7月7日	占用場所	倉敷市倉敷町123番地先
	許可番号	岡山県指令備中局建第77号	備考	道路占用許可

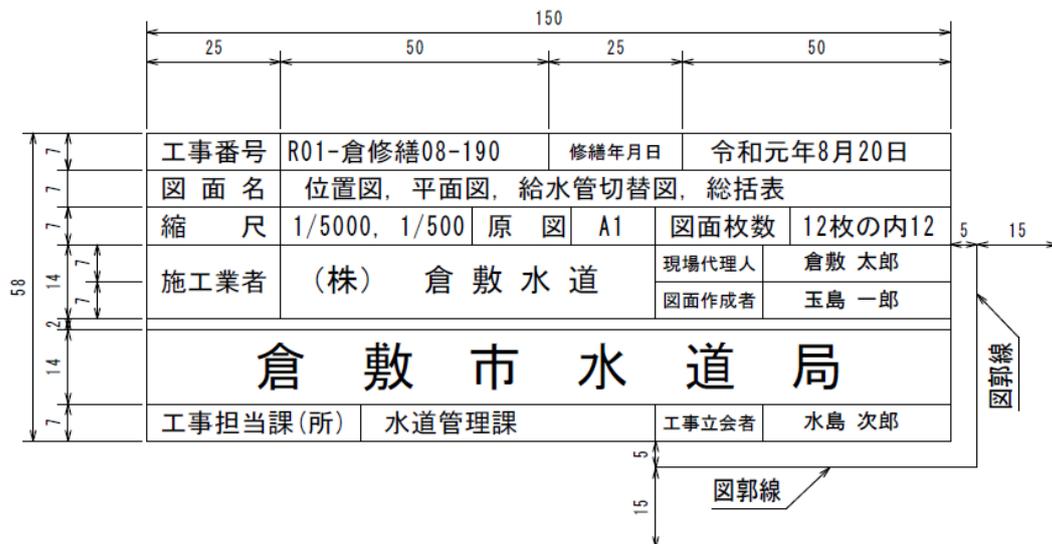
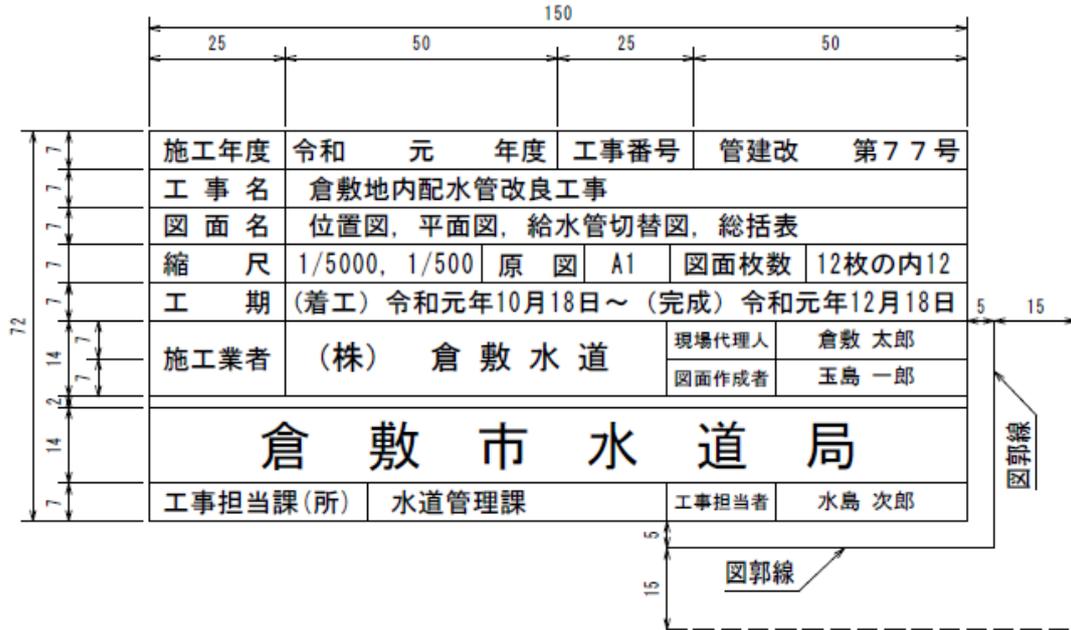


図8-4 標題の記入例

(5) 総括表

ア 口径ごとに、工種・管種・数量等を記入する。（図8-5参照）

イ しゅん工図が2枚以上になる場合でも、全内容を1枚目一括して表示する。

ウ 表示内容

(ア) 布設工

a 管種は略称を記入し、正式名称を別欄に記入する。

b 数量は管路延長をmで表し、小数第2位まで記載する。

c 複数の路線がある場合は、備考に内訳を記入する。また、水管橋又は橋梁添架管（以下、「水管橋等」という）を含む場合は、その旨を記入すること。（図8-5参照）

(イ) 仕切弁

a 管種・形状にはソフトシール・青銅仕切弁等の種別を記入する。

b 備考に該当ルートを記入する。

(ウ) 消火栓

a 管種・形状には地下式単口（副弁付）等の種別を記入する。また、うず巻き式フランジT字管を使用している場合は、その旨を記入すること。

b 備考に該当ルートを記入する。

(エ) 空気弁

a 管種・形状には急速空気弁等の種別を記入する。

b 備考に該当ルートを記入する。

(オ) 埋没及び撤去工

a 埋没管数量は新設管路の全線に既設管がある場合は、布設延長の数量に合わせる。

(カ) その他担当者が指示するもの

総 括 表

口 径	工 種	口径・寸 法	管 種・形 状	数 量	備 考
φ 1 0 0	布設工	φ 1 0 0	G X D I P (P E)	356. 20m	A ルート 246. 20m (露出部有り) B ルート 110. 00m
	仕切弁	φ 1 0 0	ソフソール仕切弁	2 基	A・B ルート
	消火栓	φ 7 5	地 下 式 単 口 (うず巻き式)	1 基	B ルート
	埋没管	φ 1 0 0	V P	200. 00m	
	埋没管	φ 7 5	V P	156. 20m	
φ 7 5	布設工	φ 7 5	H P P E	76. 10m	C ルート
	仕切弁	φ 7 5	ソフソール仕切弁	1 基	C ルート
	埋没管	φ 5 0	V P	76. 10m	
G X D I P (P E) ・ ・ 水道用ダクタイル鋳鉄管 (G X 形) 内面粉体塗装					1 ・ S 種管
H P P E ・ ・ ・ ・ ・ 水道配水用ポリエチレン管					

図 8 - 5 総括表記入例

(6) 位置図

ア 位置図は、平面図の右上角に配置し、工事場所がわかるように記入する。

イ 位置図の輪郭の大きさは、B 5 判 (18. 2 cm × 25. 7 cm) 以上とする。

(7) 平面図

ア 水道施設の記号は、別紙「水道施設記号集」を使用する。

イ 新設配管は、実線で表示し、弁栓類・異形管 (曲がり) 等の位置は、各オフセット
測定のデータを基に記入する。

ウ 別添に詳細図を記載する場合は、平面図の該当箇所を○で囲み、符号を付けて区別する。また、平面図の該当箇所はルート of の若い方の起点側から「ア、イ、ウ・・・」のように符号を付けること（図8-6参照）。

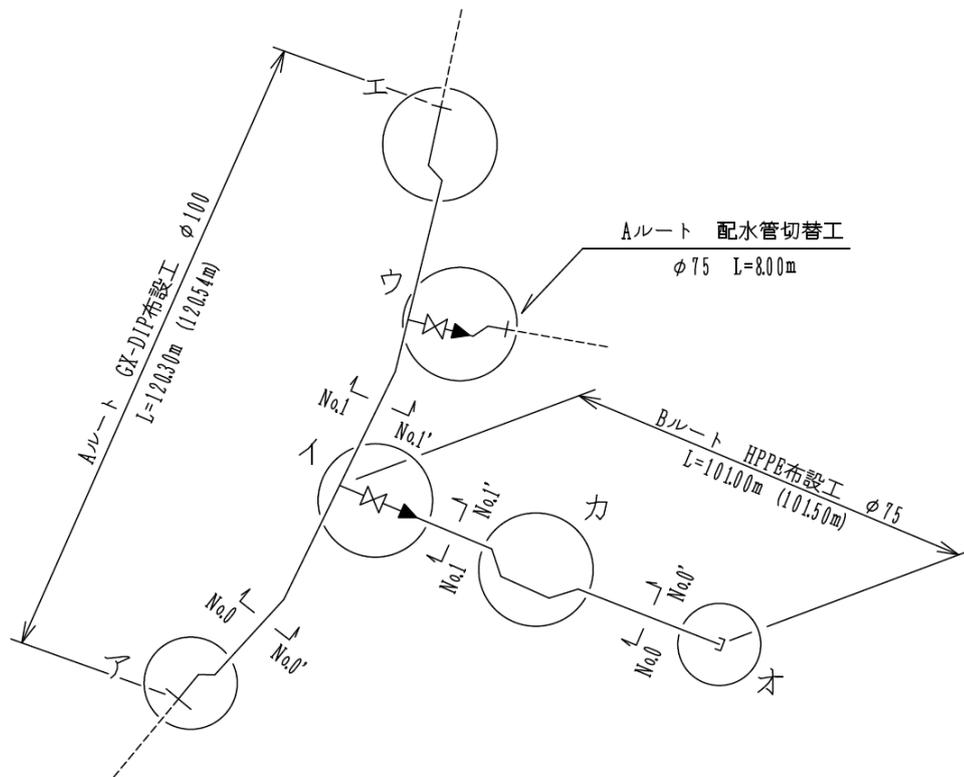


図8-6 詳細図符号記入例

エ 新設配管は、路線名・管種（布設工のみ）・工種・口径・延長（平面・管路）・土被り・入替種別・道路形態等を記入する。

（例）Aルート GX形DIP（PE）布設工 φ100 L=320.30m（320.54m）

うち露出部 L=10.55m（11.15m）（水管橋等を含む場合）

土被り0.6m 土砂全面入替 アスファルト舗装道 設計水圧〇〇MPa（0.75MPaを超える場合）

オ 水管橋等を含む場合は、その露出部管路を上記エの例のように記載する。なお、延長（平面・管路）は実測値とする。

カ 設計水圧が0.75MPaを超える場合は、設計水圧を上記エの例のように記載する。

キ 既設管は、破線（細線）で表示し、管種・口径・土被りを記入する。また埋設管については、管種・口径を記入し、その上を斜線で消込みを行う。（図8-7参照）



図 8 - 7 既設管・埋設管表示例

ク 仕切弁、青銅仕切弁、消火栓及び空気弁には監督員より通知のあった管理番号を記入する。（配水管に設置するものについてのみ。給水管に設置するものには記載しなくてよい。また、詳細図等には記載しなくてよい）。字の大きさについては 4 mm 以上のサイズとし、交差点等で設置基数が多くなる場合は引き出し線等を使用して表示すること。

（図 8 - 8 参照）

ケ 締切仕切弁（排水管に設置するものは除く）は黒塗りで図示すること。（図 8 - 8 参照）

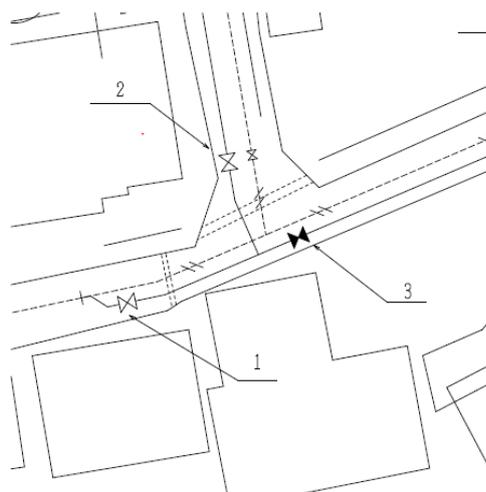


図 8 - 8 仕切弁表示例

コ 測点及び横断面図の位置を記入し、測点番号は「0」から始まり「No. ○○」と表示し、横断面の位置については、矢視（）で表す。また、横断面の位置については、設計図面・工事写真の横断面位置と同位置にする。（ただし、現場状況により管布設位置等が変化する場合は、監督員の指示により変更する。）

(8) 横断面図

ア 測点ごとに横断面図を書き、断面の測定（切り方）方法は、図 8 - 9 のとおりとする。ただし、同一路線の場合において、断面の切り方は同一方向とする。

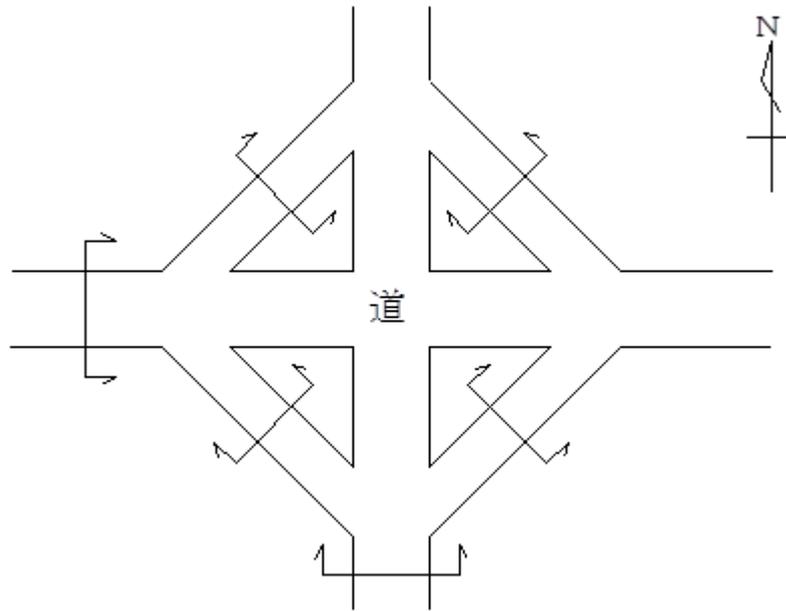


図 8 - 9 断面の測定方法

イ 寸法はmで表し、小数第2位まで記入する。

ウ 水道管の埋設位置は、道路の両端（官民境）から測定記入し、土被りは道路天から測定する。ただし、工事中の道路では道路計画天を基準とする。（図 8 - 9 参照）

エ 他の占用物件（N T T、ガス、下水、電気等）が確認された場合は、埋設位置を測定し記入する。（図 8 - 1 0 参照）

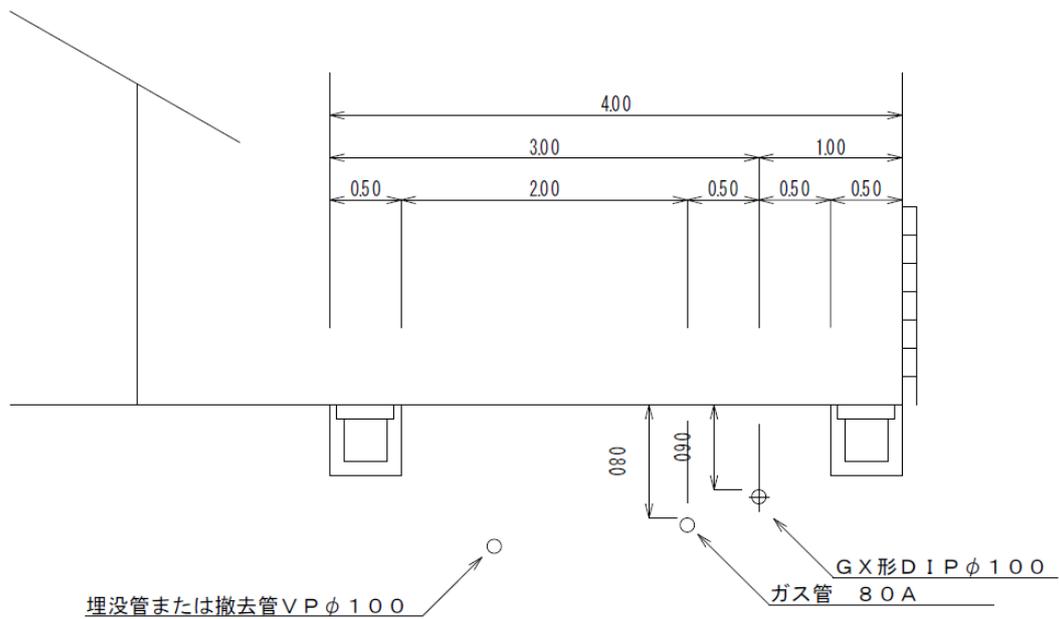
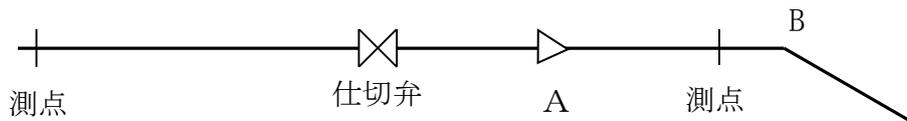


図 8 - 1 0 横断面図(例)

(9) 詳細図

ア 詳細図として図示する箇所は次のとおりとし、いずれもオフセット測量を実施する。(図8-11参照)

- (ア) 測点箇所(ただし、付近に下記の箇所がある場合は、省略できる)
- (イ) 工事の起終点及び既設管接続箇所
- (ウ) 管の末端部(フランジ蓋・栓・キャップ等)
- (エ) 分岐箇所
- (オ) 仕切弁・消火栓等
- (カ) 異形管使用箇所
- (キ) 口径・管種変更箇所(※口径と管種が同時に変わる場合は口径変更を優先する)
- (ク) 拘束長一覧表(設計水圧0.75MPaを超える場合)
- (ケ) その他監督員の指示する箇所



この場合は、測点、仕切弁、A・B点をオフセット測量する。

図8-11 オフセット測量箇所(例)

イ 詳細図の種類は次のとおりとし、関連のある詳細図がある場合については、それぞれの関係が容易に分かる様な配置にする。

(ア) 平面詳細図

- a オフセット測量の箇所を ● で示し、基準点からの平面距離及び管路布設位置を記載する(図8-12、13参照)。
- b 水道施設の記号は、別紙「水道施設記号集」を使用する。
- c 付近の見取り図及び、基準点の位置については、正確に記入する。

(イ) 配管詳細図

- a オフセット区間ごとに平面延長を記入し、管路延長については括弧書きで表示する。(図8-12参照)
- b 延長はmで表し、小数第2位まで記入する。

- c 配管記号は、別紙「水道施設記号集」を使用する。
 - d 切管には寸法を記入する。
 - e 曲管については、引出し線で角度及び曲がりの形状（HB・VB・CB）を記入し、T字管、片落管等については、引出し線で口径を記入し、配管記号により種別が判り難いものは、名称等も記入すること。
 - f 管路が添架、伏越し等により垂直方向に変化する場合は、平面配管にて表示し難い場合は、断面詳細図を記入する。この時、管路の各土被り及び障害物等との距離を表示すること。また、当該平面配管の近くに記入すること。（図8-14・15参照）
 - g 工事内で撤去または埋没する仮設配管は竣工図に入れないこと。
- (ウ) その他監督員の指示する詳細図

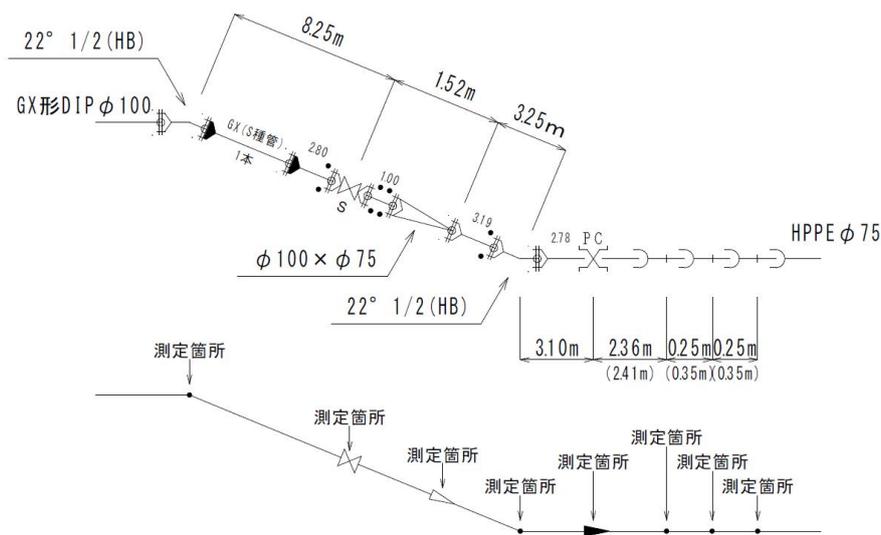


図8-12 区間距離表示例及び測定箇所(例)

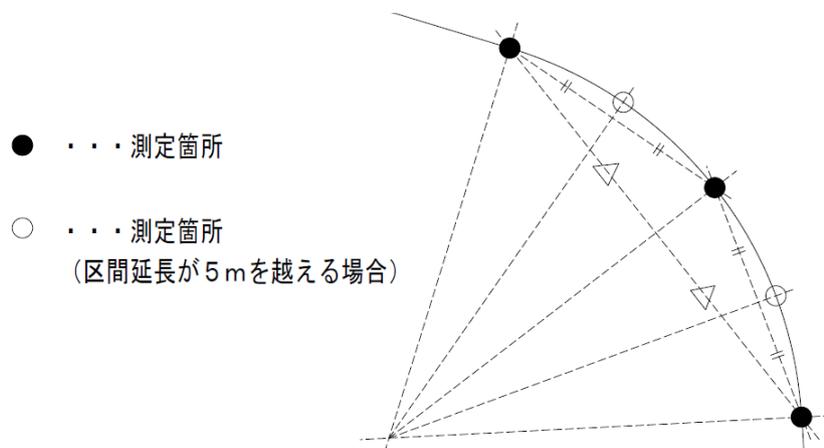


図8-13 ポリエチレン管（曲線部）測定箇所

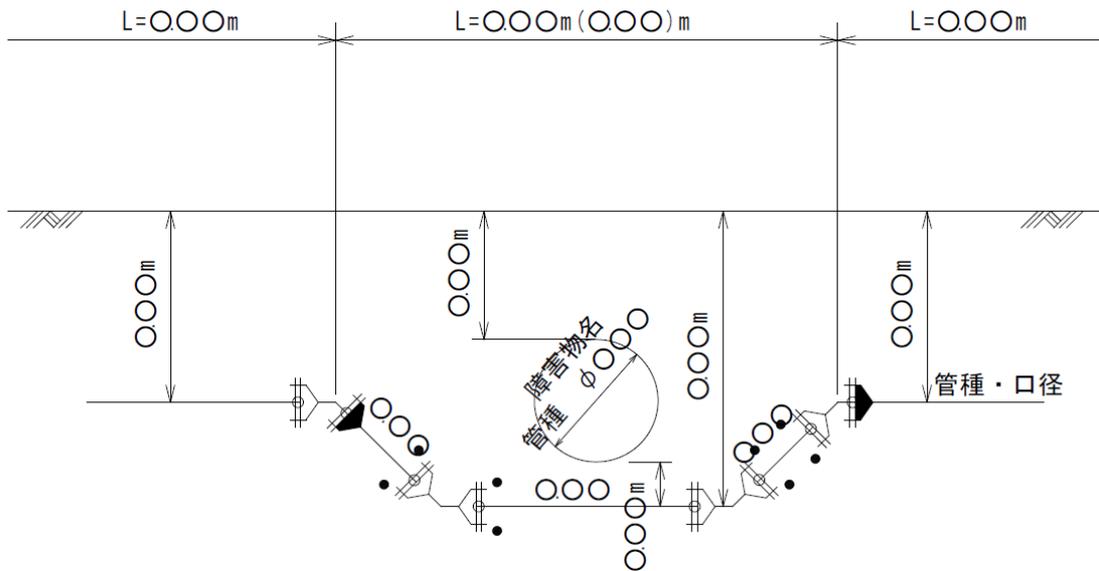


図 8 - 1 4 断面詳細図 例 1

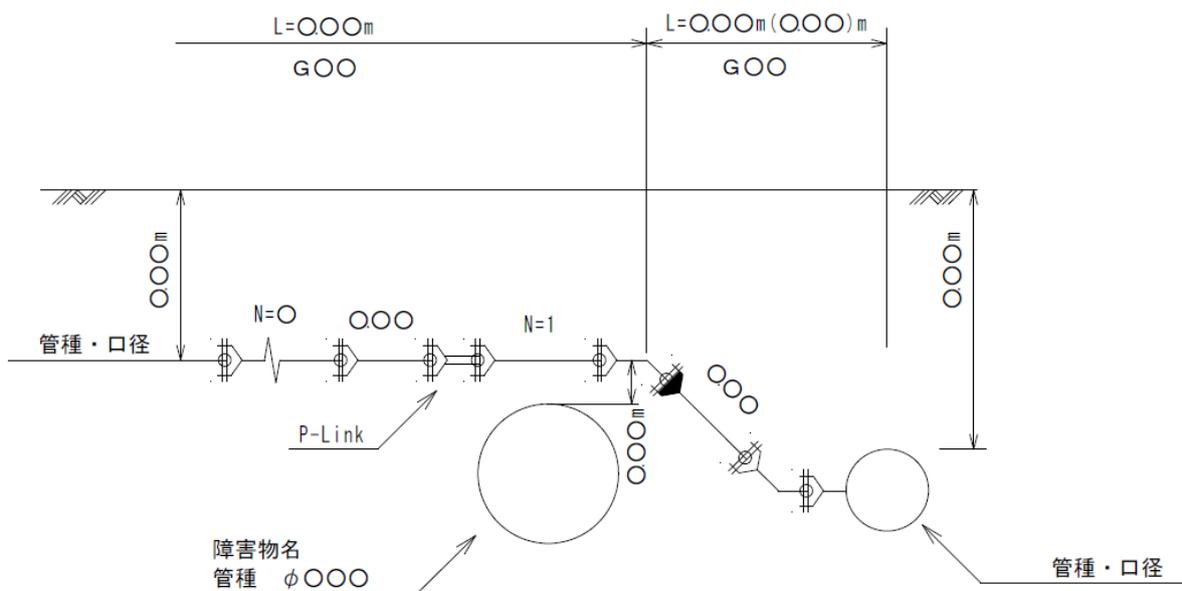


図 8 - 1 5 断面詳細図 例 2

ウ 異形管の測定箇所

(ア) 区間距離、オフセット測量を実施する場合の異形管等の測定箇所は、次のとおりとする。(図 8 - 1 6 参照)

- (a) 曲管・丁字管は、交点とする。
- (b) 仕切弁は、弁体の中心とする。
- (c) 空気弁・消火栓は、蓋の中心とする。
- (d) 片落管は、小口径側の受口及び挿口とする。

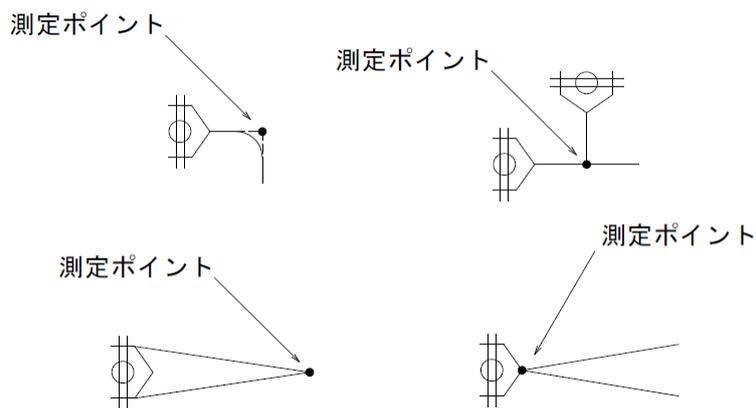


図 8 - 1 6 異形管等の測定ポイント

(10) 給水管切替図 (図 8 - 1 7 参照)

- ア 平面図に併記するものとし、併記することが困難な場合は別図とすることができる。
- イ 給水管切替図には、当該工事で切替を実施した全ての給水管を図示する。
- ウ 分岐位置よりメーター位置までを実線で結び、メーター位置は M で表示する。また、切替番号 (通し番号) をつけて給水管切替表と照合できる様にする。
- エ メーターから各戸までは点線で表示し、給水先を明確に示す。

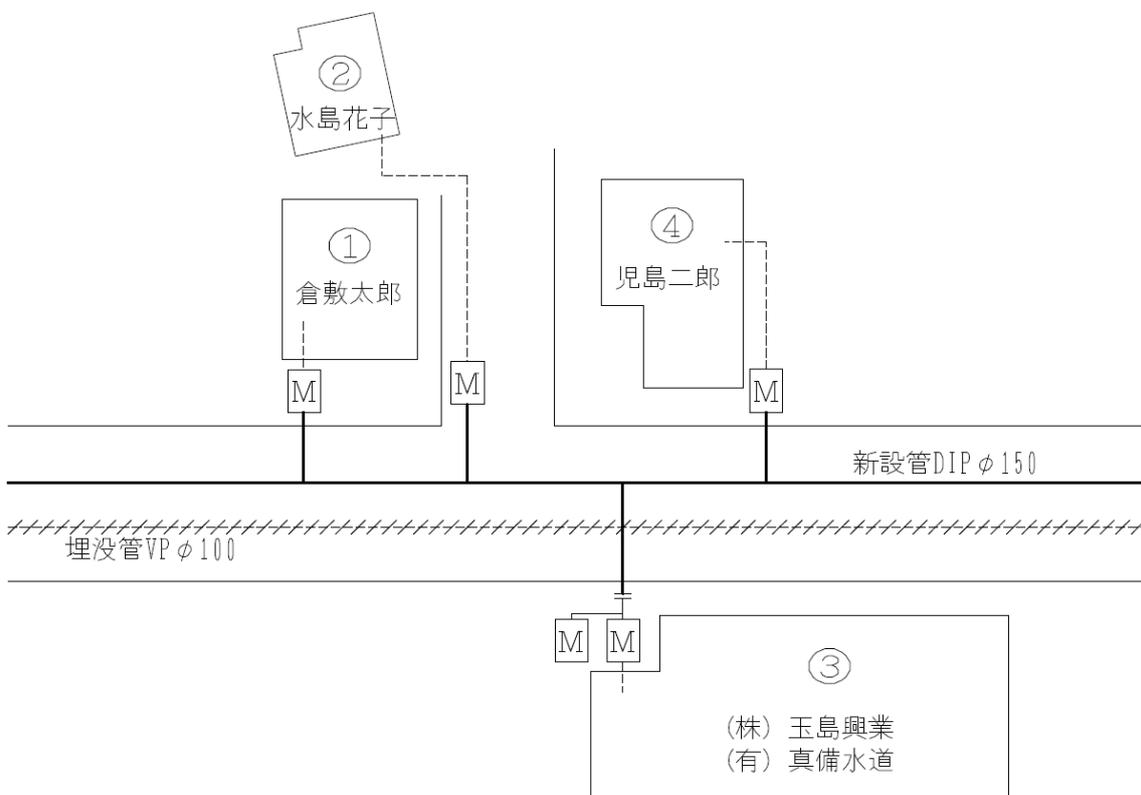


図 8 - 1 7 給水管切替図 (例)

オ 給水管切替表を作成し、次の項目を記載する。（表 8 - 1 参照）

- (ア) 切替番号
- (イ) 使用者氏名（使用者が複数の場合は、「外○」と記入する。）
- (ウ) 配水管口径
- (エ) 分水管口径
- (オ) 接続管口径
- (カ) 給水管管種
- (キ) 給水管平面延長
- (ク) 給水管管路延長
- (ケ) 量水器口径（量水器が複数の場合は、「外○」と記入する。）
- (コ) 量水器番号（量水器が複数の場合は、親番の量水器番号+外○と記入する。）
- (カ) 水栓番号（水栓番号が複数の場合は、親番+外○と記入する。）
- (シ) 備考（接続位置を記入。道路接続、直結止水栓等）

切替 番号	使用者氏名	配水管 口径 φ mm	分水管 口径 φ mm	接続管 口径 φ mm	給水管 管種	給水管 平面延長 m	給水管 管路延長 m	土被り m	量水器 口径 φ mm	量水器番号	水栓番号	備考

表 8 - 1 給水管切替表

カ 給水管切替位置記録表

別紙給水位置記録表の記載要領による。

8 管種一覧表

表 示	名 称	管 種	規 格
G X D I P	水道用ダクタイル鋳鉄管	1・S種管 P E	JWWA G 120・121
N S D I P	水道用ダクタイル鋳鉄管	1・3種管 P E・C L	JWWA G 113・114
K D I P	水道用ダクタイル鋳鉄管	1・3種管 P E・C L	JWWA G 113・114
T D I P	水道用ダクタイル鋳鉄管	1種管 P E・C L	JWWA G 113・114
H P P E	水道配水用ポリエチレン管		JWWA K 144・145 他
P P	ポリエチレン二層管		JIS K 6762
R R H I V P	水道用ゴム輪形耐衝撃性 硬質塩化ビニル管		JWWA K 129
H I V P	水道用耐衝撃性 硬質塩化ビニル管		JIS K 6742
V P	水道用硬質塩化ビニル管		JIS K 6742
S G P - V B	水道用硬質塩化ビニル ライニング鋼管		JWWA K 116
S S P	水道用ステンレス鋼管	SUS - 304・316	JWWA G 115
S T W ○ ○ ○	水道用塗覆装鋼管管		JWWA G 117

※ P E : 内面エポキシ樹脂粉体塗装 C L : モルタルライニング

参 考

給水管位置記録表の記載要領

給水管位置記録表の記載要領

1 記録表の提出について

給水管位置記録表は、1枚に1件の水栓番号とその切替位置を記入し、用紙サイズA4で提出すること。（1枚に複数の水栓番号記入を認めない。）

2 記入内容について

下記事項と様式集の「記入例」を参考に記入すること。

(1) 水栓番号

水栓番号が確認できない場合は、局担当者へ協議し記入すること。また、複数の水道メーターを有する給水本管の切替については、（親）水栓番号を記入すること。

(2) 施工種別

給水管切替の場合は、原則として「切替」を選択すること。

(3) 施工日

給水管切替工事を実施した日を記入すること。

(4) 水栓所在地

水栓が設置されている建物の所在地（住所）を記入すること。なお、アパートやビル等に建物名がある場合は、その建物名も記入すること。

(5) オフセット平面図・断面図

ア 右下の通し番号は、工事竣工図の給水管切替表と同じ番号を記入すること。

イ 給水管分岐箇所、管路変化点及び仕切弁等は、オフセット測量を実施し距離を記入すること。また、分岐箇所付近に上水道の弁栓類鉄蓋がある場合は、その鉄蓋中心から分岐箇所までの平面直線距離を併せて記入すること。

ウ オフセット平面図には、分岐箇所から接続切替箇所までの給水管と、メーターボックスの位置を記入すること。

エ 平面延長は、分岐箇所から接続箇所までを記入すること。なお、平面的な折点がある場合は、折点毎に平面距離も記入すること。

オ 地下埋設物は、名称、位置、距離等を断面図に記入すること。

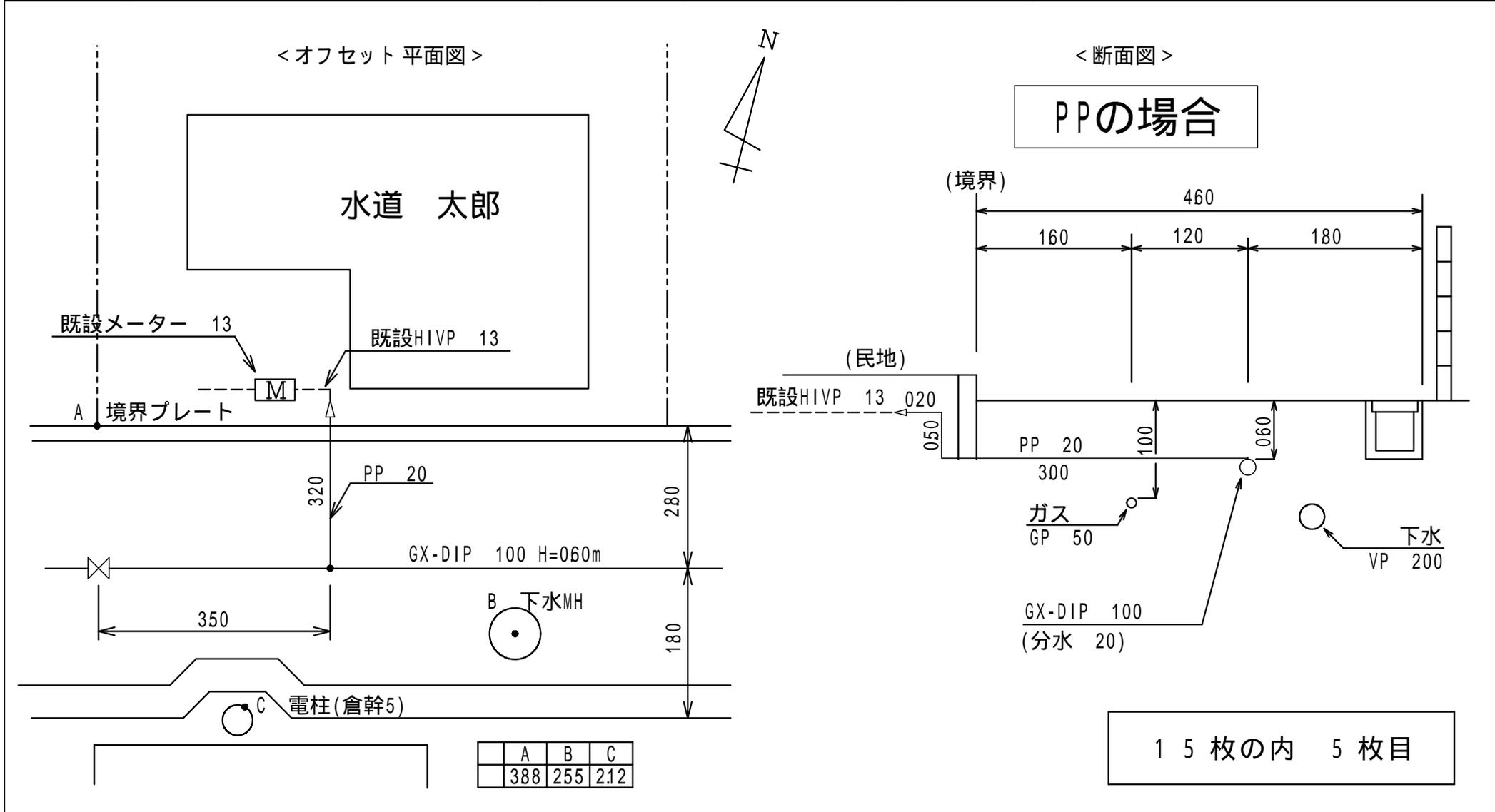
カ φ50以上の給水管切替は、配管の詳細が分かるように記入すること。

キ オフセットに電柱を使用する際の電柱番号は、所有者である上にある番号を記入すること。

【 記入例 】 給水管位置記録表

水栓番号	倉・水・児・玉
	1 2 1 7 0 8

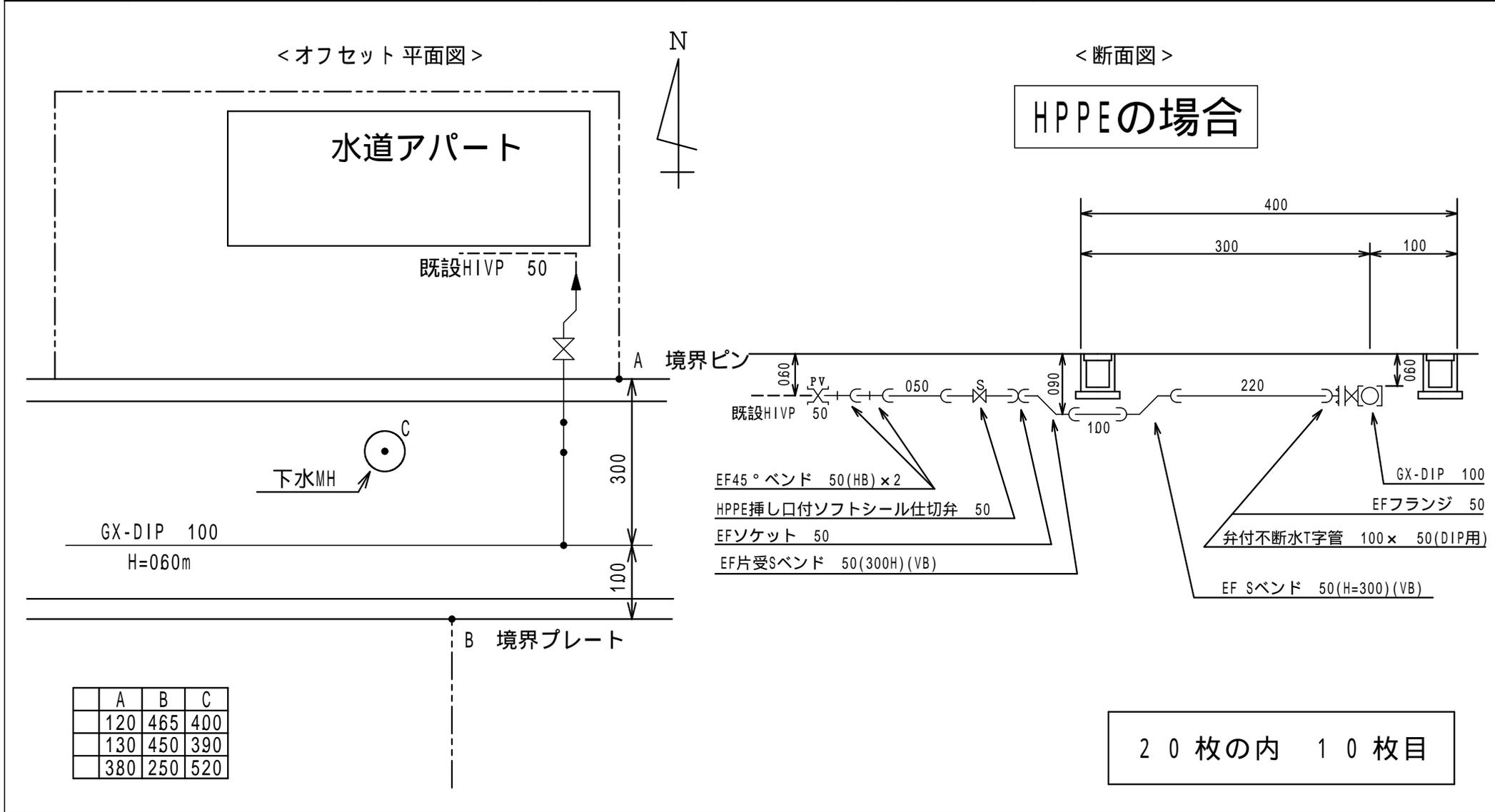
工事番号	令和元年度 管建改 第124号	工事名	西中新田地内配水管改良工事(その3)		
工期	令和元年11月10日~令和2年1月31日	施工種別	給水管(新設・ 切替)	施工日	令和元年12月10日
受注者	(有)倉敷水道工業	メーター番号	11-05311	水栓所在地	倉敷市西中新田777-7



【 記入例 】 給水管位置記録表

水栓番号	倉・水・児・玉
	1 3 2 0 5 1 2

工事番号	令和元年度 建建倉 第100号	工事名	中島地内配水管移設工事(その7)		
工期	令和元年10月1日~令和元年12月25日	施工種別	給水管(新設・ 切替)	施工日	令和元年11月15日
受注者	(株)倉敷水道工業所	メーター番号	25-01234	水栓所在地	倉敷市中島77-8

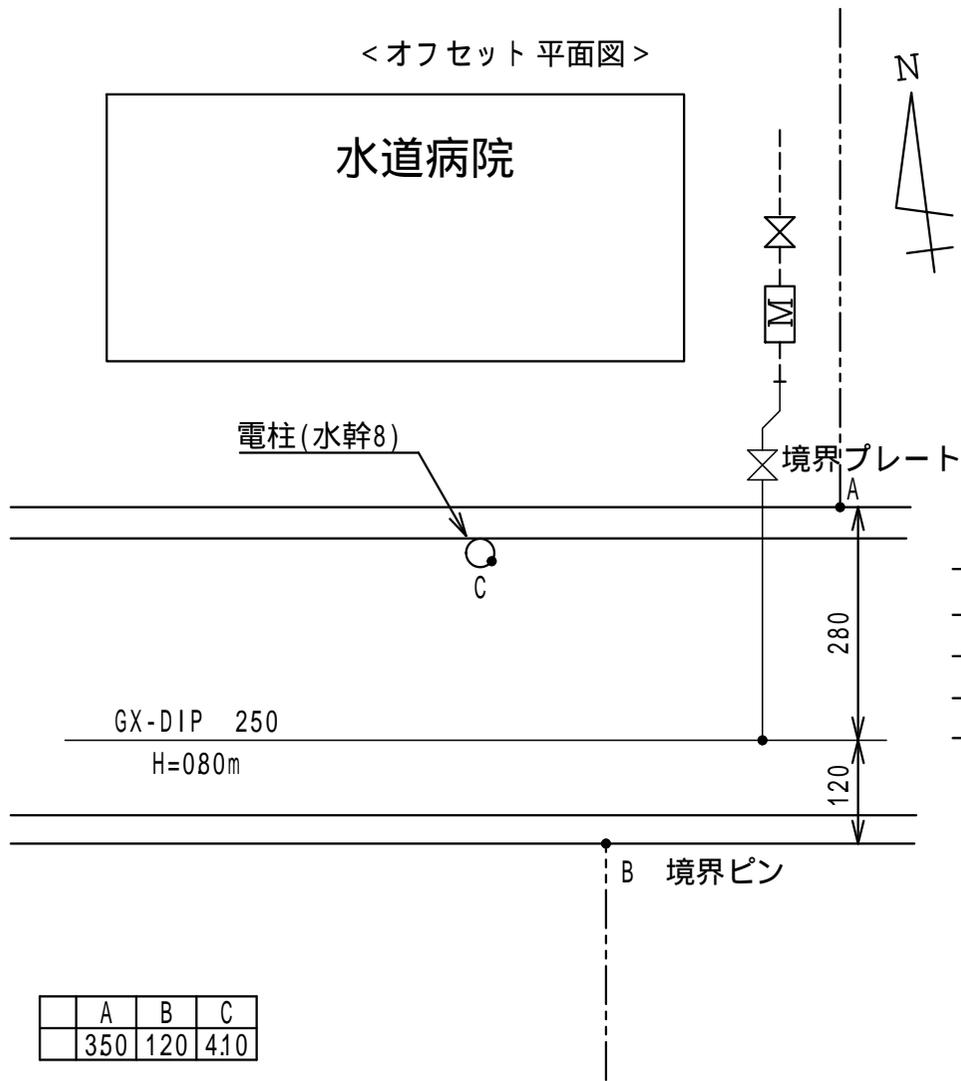


【 記入例 】 給水管位置記録表

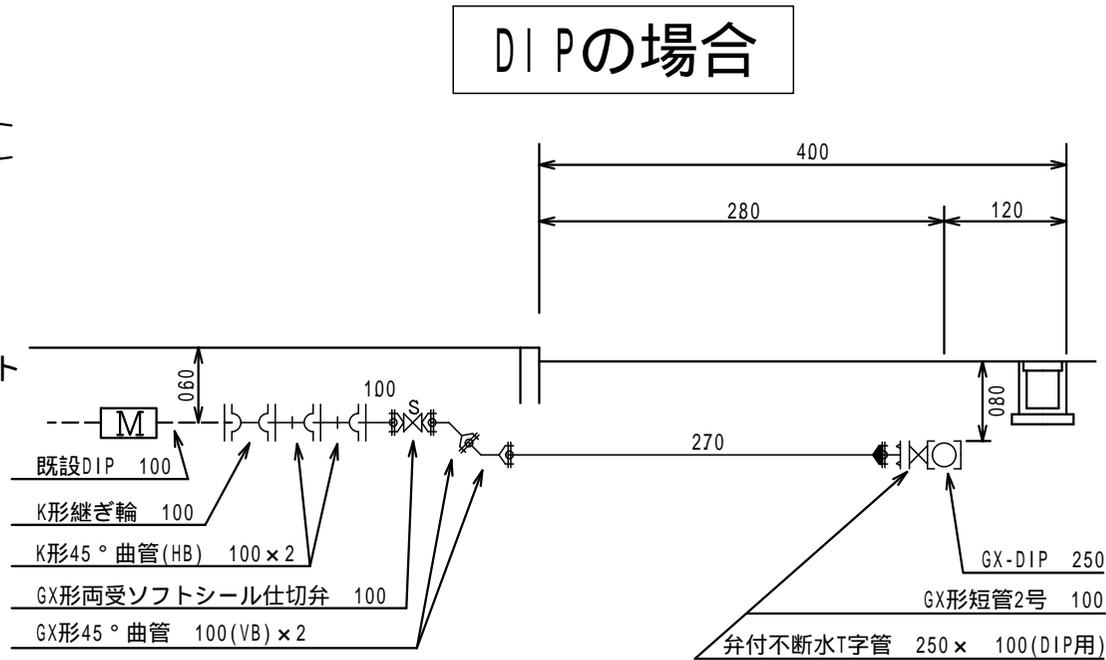
水栓番号	倉・ 水 ・児・玉
	2 7 0 1 5 0

工事番号	令和元年度 水建改 第50号	工事名	神田1丁目地内配水管改良工事(その8)		
工期	令和元年10月1日~令和元年2月28日	施工種別	給水管(新設・ 切替)	施工日	令和元年12月1日
受注者	(有)水島水道工業所	メーター番号	26-43210	水栓所在地	倉敷市神田1丁目88-7

< オフセット平面図 >



< 断面図 >

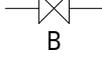
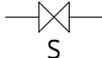
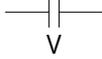
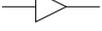
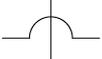


30枚の内 15枚目

水道施設記号集

平面図

適用：設計図書・しゅん工図

名称	記号	名称	記号	名称	記号
管の表記		弁栓類等の表記		(参考)主な給水装置	
管路		バタフライ弁		減圧弁	
管の分岐		ソフトシール仕切弁		ポンプ	
施工境界点		鋳鉄製仕切弁		受・高架水槽	
管末		青銅仕切弁			
排水管管末		ハルブ (青銅以外)			
口径変更点		消火栓 (単口)			
管種変更点		消火栓 (双口)			
管の交差		空気弁			
防護管 (鞘管)		止水栓			
		メーターボックス付近			
		逆止弁			
		減圧弁			
		バタフライ弁 (締切)			
		ソフトシール仕切弁 (締切)			

配管図・詳細図等

適用：設計図書・しゅん工図

名称	記号	名称	記号	名称	記号
ダクタイル鑄鉄管 T形		ダクタイル鑄鉄異形管 (GX形) 二受T字管		短管1号	
K形		片落管(受挿し)		短管2号	 GX
GX形		片落管(挿し受)		帽	
NS形		90°曲管		うず巻き式 フランジ付T字管	
S形		45°曲管		排水T字管	
S形		22°1/2曲管			
KF形		11°1/4曲管			
フランジ (RF形)		45°両受曲管			
フランジ (GF形)		22°1/2両受曲管			
T形 (離脱防止使用)		フランジ付T字管 (浅層用も含む)			
K形 (特殊押輪使用)		継ぎ輪			
GX形 (ライナ使用)		継ぎ輪 (G-Link使用)			
NS形 (ライナ使用)		継ぎ輪 (特殊押輪使用)			
切管時	 300 (寸法を記入)	P-Link			
管の省略 (複数の直管使用時)	 3本 (使用本数を記入)	両受短管			

配管図・詳細図等

適用：設計図書・しゅん工図

名称	記号	名称	記号	名称	記号
ダクタイル鑄鉄異形管 (NS形) 二受T字管		短管1号		ダクタイル鑄鉄異形管 (T形) 二受T字管	
片落管(受挿し)		短管2号		片落管(受挿し)	
片落管(挿し受)		帽		片落管(挿し受)	
90°曲管		NS管末栓 (S継ぎ輪+S栓)		90°曲管	
45°曲管		うず巻き式 フランジ付丁字管		45°曲管	
22°1/2曲管		NS・S帽		22°1/2曲管	
11°1/4曲管				11°1/4曲管	
5°5/8曲管				フランジ付T字管 (浅層用も含む)	
45°両受曲管				排水T字管	
22°1/2両受曲管					
フランジ付T字管 (浅層用も含む)				短管1号	
排水T字管				短管2号	
継ぎ輪					
継ぎ輪 (特殊押輪使用)					

配管図・詳細図等

適用：設計図書・しゅん工図

名称	記号	名称	記号	名称	記号
ダクタイル鑄鉄異形管 (K形) 二受T字管		短管2号 (GF形)		ダクタイル鑄鉄異形管 (S形) 二受T字管	
片落管(受挿し)		栓		片落管(受挿し)	
片落管(挿し受)		うず巻き式 フランジ付丁字管		片落管(挿し受)	
90°曲管				90°曲管	
45°曲管		A・K形特殊割押輪		45°曲管	
22°1/2曲管		廃止管用栓 (挿し口用)		22°1/2曲管	
11°1/4曲管				11°1/4曲管	
5°5/8曲管				フランジ付T字管	
フランジ付T字管 (浅層用も含む)				排水T字管	
排水T字管				継ぎ輪	
継ぎ輪				継ぎ輪 (特殊押輪使用)	
短管1号 (RF形)				短管1号	
短管1号 (GF形)				短管2号	
短管2号 (RF形)				栓	

配管図・詳細図等

適用：設計図書・しゅん工図

名称	記号	名称	記号	名称	記号
ダクタイル鑄鉄異形管 (KF形) 二受T字管		ダクタイル鑄鉄異形管 (S形) 継ぎ輪			
片落管 (受挿し)					
片落管 (挿し受)					
90°曲管		フランジ短管			
45°曲管		フランジふた			
22°1/2曲管					
11°1/4曲管		ダクタイル鑄鉄異形管 (その他) メカ型ACジョイント			
5°5/8曲管					
フランジ付T字管					
排水T字管					
短管1号					
短管2号					

配管図・詳細図等

適用：設計図書・しゅん工図

名称	記号	名称	記号	名称	記号
水道配水用ポリエチレン管 HPPE直管		EF Sベンド (300H)		水道配水用ポリエチレン管 メカニカル継手 メカ型HPPEジョイント (HPPE x HPPE)	
EF受口付 HPPE直管		EF Sベンド (450H)		メカ型HPPEフランジ短管	
管の省略 (複数の直管使用時)	 (使用本数を記入)	EF Sベンド (600H)		メカ型PCジョイント (HPPE x DIP)	 PC
		EF片受Sベンド (300H)		メカ型PVジョイント (HPPE x VP)	 PV
水道配水用ポリエチレン管継手 (EF継手) EFソケット		EF片受Sベンド (450H)		メカ型HPPE x PP 片落ちジョイント (HPPE x PP)	 HPPE x PP
EF片受レデューサ		EF片受Sベンド (600H)		メカ型HPPE三受T字管	
EF90°ベンド		EFチーズ		メカ型HPPEワッパ付T字管	
EF45°ベンド		EFキャップ		メカ型HPPEキャップ	
EF22°1/2ベンド		EFフランジ (鋳鉄・SUSフランジ, GF形)			
EF11°1/4ベンド				水道配水用ポリエチレン管金属継手 (インコア打ち込み式) おねじ付ソケット	 HPPE
EF片受90°ベンド		水道配水用ポリエチレン管継手 (スピゴット継手) HPPE挿し口付フランジ (鋳鉄・SUSフランジ, GF形)		めねじ付ソケット	 HPPE
EF片受45°ベンド				変換チーズ (HPPE x PP)	 HPPE
EF片受22°1/2 ベンド		水道配水用ポリエチレン 挿し口付きタクタイル鋳鉄異形管 フランジ付鋳鉄製T字管 (HPPE挿し口付, GF形)		ソケット	 HPPE
EF片受11°1/4 ベンド				変換ソケット (HPPE x PP)	 HPPE x PP
				分水栓用ソケット (回転型)	 HPPE

配管図・詳細図等

適用：設計図書・しゅん工図

名称	記号	名称	記号	名称	記号
ポリエチレン二層管 PP	———	PP用金属継手ブッシュオンタイプ 及び インコア打ち込み式 鋼管用おねじ付ソケット		PP用金属継手インコア打ち込み式 メーター・止水栓用 ソケット回転型	
		鋼管用めねじ付ソケット		鋼管用おねじ付ソケット (回転型)	
		メーター・止水栓用 ソケット		分水栓用ソケット (回転型)	
		分水栓用ソケット		鋼管用めねじ付エルボ	
		ソケット			
		径違いソケット			
		チーズ			
		90°エルボ			
		45°エルボ			
		止水栓用60°バンド			
		止水栓用60° ロングバンド			
		止水栓用90°バンド			
		止水栓用90° ロングバンド			
		パイプエンド			

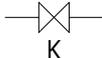
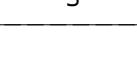
配管図・詳細図等

適用：設計図書・しゅん工図

名称	記号	名称	記号	名称	記号
硬質塩化ビニル管 VP・HIVP		硬質塩化ビニル管用メカ継手 三受T字管			
RR・HIVP		フランジ付きT字管			
RR・HIVP (離脱防止金具使用)		フランジ短管			
管の省略 (複数の直管使用時)		フランジ片落短管			
		VCジ ョイント			
硬質塩化ビニル管継手 (RR継手) 90°ベンド (離脱防止金具使用)		VC片落ジ ョイント			
45°ベンド (離脱防止金具使用)		VSジ ョイント			
22°1/2ベンド (離脱防止金具使用)		VS片落ジ ョイント			
11°1/4ベンド (離脱防止金具使用)		栓 (離脱防止金具使用)			
ソケット(両受) (離脱防止金具使用)		ド レッサージ ョイント (VP×VP)			
		ド レッサージ ョイント (ACP×VP)			
		離脱防止付差込 継手			
		鋼管用シモク類 伸縮可トウ継手			
		TS継手ソケット			
		締め付け継手ソケット			

配管図・詳細図等

適用：設計図書・しゅん工図

名称	記号	名称	記号	名称	記号
弁種類 バタフライ弁 (受口部：フランジ)	 B	(簡易仕切弁)	 K		
(受口部：GX形)	 B		(メーカー名、型名)*1 *1 しゅん工図には、簡易仕切弁のメーカー名と型名を記入のこと。		
(受口部：NS形)	 B	鑄鉄製仕切弁			
(受口部：S形)	 B	青銅仕切弁	 S E		
(受口部：KF形)	 B	(伸縮可トウ継手使用)	 S E		
ソフトシール仕切弁 (受口部：フランジ形)	 S	ハ° ルフ° (青銅以外)			
(受口部：GX形)	 S				
(受口部：GX形)	 S				
(受口部：NS形)	 S				
(受口部：NS形)	 S				
(受口部：S形)	 S				
(受口部：K形)	 S				
(受口部：メカ型)	 S				
(H P P E挿し口付)	 S				

配管図・詳細図等

適用：設計図書・しゅん工図

名称	記号	名称	記号	名称	記号
単口消火栓 (配管図)		不断水T字管類 弁付不断水T字管 (ねじ込み形) (簡易仕切弁)		その他の施設や記号 逆止弁	
(詳細図)		(フランジ形) (簡易仕切弁)		減圧弁	
(フランジ短管使用)		弁付不断水T字管 (フランジ形) (ソフトシール仕切弁)		水平ベンド (Horizontal Bend)	(HB)
(補修弁使用)		不断水T字管 (フランジ形)		垂直ベンド (Vertical Bend)	(VB)
(フランジ短管+補修弁使用)		その他		水平・垂直ベンド* (Combination Bend)	(CB)
		止水栓			
		メーターボックス付近 (ボックス+メーター+止水栓)		特別な図示 伸縮可とう管	型式・材質を 引出し線で記入
空気弁 (配管図)				水管橋	形式(添架, 補剛 パイプヒーム)を引 出し線で記入
空気弁 * 2 (補修弁内蔵型)		サドル付分水栓		防護管(鞘管)	管種・延長・充填物 等を引出し線で記入
(フランジ短管使用)					
空気弁 * 2 (補修が必要な空気弁)				(参考) 主な給水装置 減圧弁	
(フランジ短管使用)				ポンプ	
				受・高架水槽	
	* 2 しゅん工図には、空気 弁のメーカ名と型名を記 入のこと。				

電子媒体の対象となる成果品作成要領

1 しゅん工図等の作成

- (1) このしゅん工図等は，倉敷市水道局で定める「水道工事共通仕様書」「水道工事図面作成要領」「弁栓管理データ作成要領」に基づき作成する。
- (2) 本仕様に規定していない事項及び設備管理システムに登録するものについては，監督員と協議のうえ作成する。

2 電子媒体の対象となる成果品内容について

(1) しゅん工図

用途	納品形体	形式	大きさ	提出数量	備考
データ登録用	電子媒体	PDF 解像度 300dpi モノクロ	A1	CD-R 又は DVD-R	電子媒体かマイラーのどちらか1部を提出
	マイラー	200番以上のマイラー用紙（両面マット）	A1	1部	
確認・保存用	紙		A1, A3	必要部数	A3縮小図面の提出可

(2) 給水管切替箇所位置記録表

用途	納品形体	形式	大きさ	提出数量	備考
データ登録用	電子媒体	PDF 解像度 300dpi モノクロ	A4	CD-R 又は DVD-R	従来通り紙での提出も可
確認・保存用	紙		A4	必要部数	電子納品の場合，確認用に提出するもの

(3) 弁栓管理データ

弁栓管理データ作成要領に基づき作成する。

3 電子媒体の作成

(1) 電子納品データは、以下①～③ファイルを1枚のCD-R又はDVD-Rに格納して提出する。また、全ての図面をまとめて1ファイルとし、1工事につき1枚のディスクへの格納とする。

①しゅん工図・・・全ての図面を1ファイル（PDF形式）で保存

②給水管切替箇所位置記録表・・・同上

③弁栓管理データ・・・1ファイル（Excel形式）で保存

(2) 電子媒体のラベル作成

ア 電子媒体のラベルに以下の項目が明記されていること。

①施工年度・工事番号（4 ファイル命名規則による） ②工事名 ③施工業者名

④水道局担当者 ⑤作成年月 ⑥ウイルスチェックに関する情報

イ 電子媒体のウイルスチェック

受注者は、コンピュータにウイルス対策ソフトを配備し、定期的に最新のパターンファイルに更新するものとし、納品前に、作成した電子媒体のウイルスチェックを行うこと。なお、ウイルスチェックに使用したソフト名、パターンファイル定義年月日およびチェック年月日をCD-R又はDVD-Rラベルに記載する。ウイルス対策ソフトは特に指定はしないが、信頼性の高いものを利用すること。

4 ファイルの命名規則

ファイル名は「図面種類」（SH, Q0 又は SS）＋「施工年度（和暦）」（半角英字＋半角数字2桁）－「工事番号」（全角漢字＋半角数字）とする。修繕の場合は、「工事番号」を「修繕番号」（全角漢字＋半角英数字）と読み替える。

弁栓管理データは、「弁栓管理データ作成要領」による。

【命名例】 SHH30-建建倉 1. pdf ……しゅん工図（団地給水工事を含む）

Q0H30-建建倉 10. pdf ……給水管切替箇所位置記録表

SHH30-倉修繕 01-001. pdf ……修繕工事のしゅん工図形式のもの

SSH30-建建倉 1. pdf ……設備図面

H30-建建倉 1. xls ……弁栓管理データ

注：しゅん工図形式の修繕工事の工事番号は、「0」による桁数調整を行うが、その他のしゅん工図は、「0」による桁数調整を行わない。

5 CD-R, DVD-Rの記載例



注：記載内容は、ディスクに直接印字する、又は手書きとし、ラベルシール等の貼付けはしないこと。